

令和3年度
「町内会条例に関する市民ワークショップ」
運営業務

報 告 書

令和4年3月

札幌市市民文化局市民自治推進室

目 次

第1章 開催概要.....	1
1 開催目的.....	1
2 事業概要.....	1
(1) ワークショップテーマ.....	1
(2) 参加者選出.....	1
(3) 開催日時等.....	2
第2章 ワークショップの実施方法.....	3
1 当日のスケジュール.....	3
2 ワークショップにあたって.....	4
3 ワークショップの概要.....	5
(1) グループの編成.....	5
(2) ワークショップの流れ.....	5
第3章 市民自治を考える市民ワークショップの実施.....	8
1 情報提供.....	8
(1) 情報提供①「(仮称)札幌市町内会に関する条例」について.....	8
(2) 情報提供②町内会の役割と取組、札幌市が考えている町内会に関わる各主体の役割等...8	
(3) 情報提供③町内会(組織)が中核となり、4者の連携で地域課題を解決している事例.....9	
2 ワークショップ.....	13
(1) ワークショップ①『暮らしを支える理想的な町内会の姿』.....	13
(2) ワークショップ②「モデルケース町内会から町内会の課題解決のために4主体ができることを考える」.....	13
(3) ワークショップ(2日間)の意見のまとめ.....	14
(4) ワークショップ(3月4日開催分)の結果.....	16
(5) ワークショップ(3月6日開催分)の結果.....	35
第4章 参加者アンケート.....	57
1 アンケート実施概要.....	57
2 アンケートの質問項目と結果.....	57
3 参加者アンケート結果のまとめ.....	67
(1) 参加者について.....	67
(2) 参加者アンケート結果.....	67

第5章 ワークショップのまとめ	69
1 求められる町内会のイメージ	69
(1) あいさつ、助け合いができる関係性	69
(2) 子供や子育て世代、高齢者が暮らしやすい	69
(3) 活動の見える化とオープンな運営	69
2 町内会・地域住民・事業者の役割、行政の責務	70
(1) 町内会の役割	70
(2) 地域住民の役割	70
(3) 事業者の役割	70
(4) 行政の責務	70
3 求められる行政の支援策	71
 第6章 資料編	 74
1 情報提供資料	74
2 アンケート票	83

第1章 開催概要

1 開催目的

札幌市では、環境美化や交通安全、地域のお祭りなど、町内会の様々な活動によって安全安心で暮らしやすいコミュニティが維持されてきた。一方で、少子高齢化や生活様式の変化などにより、町内会では、加入者の減少や担い手不足などが課題となっている。

札幌市では、地域コミュニティの中心的存在である町内会の意義や重要性について、町内会、地域住民、事業者、市が共通認識を持つことを目的とした「(仮称)札幌市町内会に関する条例」の制定に向けて準備を進めるとともに、町内会の加入促進や負担の軽減につながる支援策を検討している。条例素案及び支援策案の検討にあたり、町内会役員だけではなく、町内会の会員や未加入者などで、立場や年齢、ライフスタイルの異なる市民からも広く意見を聴取するため、市民の参加による「町内会条例に関する市民ワークショップ」を実施した。

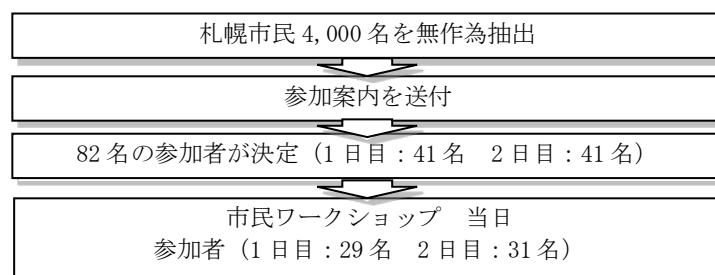
2 事業概要

(1) ワークショップテーマ

「これからの町内会のために、私たちができることについて考える」

(2) 参加者選出

町内会未加入者なども含めた幅広い世代の方にご参加いただくことを目的として、無作為に抽出した札幌市民4,000名に対し参加案内を行い、1日目の参加者41名、2日目の参加者41名を決定した。その後、欠席連絡等があり、当日参加者は1日目の参加者29名、2日目の参加者31名であった。



■参加者数内訳 1日目：3月4日（金）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	
男性	0	1	2	1	3	6	13	29
女性	2	1	2	3	4	4	16	

■参加者数内訳 2日目：3月6日（日）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	
男性	3	2	1	4	6	5	21	31
女性	1	1	4	2	0	2	10	

(3) 開催日時等

できるだけ各世代の方が参加しやすいように、平日と休日の2回開催とした。

なお、ワークショップに主体性と責任感を持って参加してもらうため、参加者には後日振込で謝礼を支払った。

■開催日時 1日目：3月4日（金）

日 時	令和4年3月4日（金）13：30～16：30
場 所	札幌市教育文化会館 3階 研修室 305 （札幌市中央区北1条西13丁目）
参加者数	29人

■開催日時 2日目：3月6日（日）

日 時	令和4年3月6日（日）13：30～16：30
場 所	北海道立道民活動センター（かでる2.7）820 研修室 （中央区北2西7）
参加者数	31人

第2章 ワークショップの実施方法

1 当日のタイムスケジュール

ワークショップは、次の流れで進行した。なお1日目と2日目のタイムスケジュールは同様である。

時間	内容
13:30	1. 開会、あいさつ
13:40	2. 情報提供① (10分) 「(仮称) 札幌市町内会に関する条例」について ・札幌市における「(仮称)札幌市町内会に関する条例」と町内会支援策の検討の背景や基本的な考え方など
13:50	3. 情報提供② (20分) 町内会の役割と取組、札幌市が考えている町内会に関わる各主体の役割等 ・札幌市における町内会の構成や活動の目的、活動内容など
14:10	4. ワークショップ① (50分) 「暮らしを支える理想的な町内会の姿」 ①あなたの暮らしを支えてくれる理想的な町内会（地域コミュニティ）を考えましょう ②理想的な町内会（地域コミュニティ）では、4主体はどんな役割を担っているでしょう
15:00	5. 休憩 (10分)
15:10	6. 情報提供③ (10分) 町内会(組織)が中核となり、4者の連携で地域課題を解決している事例 ・町内会組織が中心となって、地域住民、事業者、行政と連携しながら地域の課題解決を行っている事例を紹介
15:20	7. ワークショップ② (40分) 「モデルケース町内会から町内会の課題解決のために4主体ができることを考える」
16:00	8. 各グループから発表
16:20	9. まとめ
16:30	10. 閉会のあいさつ、アンケート記入



2 ワークショップにあたって

参加者が積極的に参加できるよう、「当日の案内」を事前に郵送し、参加に当たっての基本的なルールと情報提供などについて周知を図った。

■当日の案内（3月4日参加者に送付したもの）



町内会業務に関する市民ワークショップ
参加についてのご案内

ご参加にあたってのご案内事項、注意事項などを記載しています。事前にお読みください。
ご不明な点などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。（お問い合わせ先は最速に返信いたします。）

【ワークショップの概要】

札幌市では、環境文化や交通安全、地域の防災など、町内会の方々の様々な活動によって、安全安心で暮らしやすい地域コミュニティが維持されてきました。超高齢社会が進み、大きな自然災害などの増加に伴って、町内会における地域の支え合いや防災の担い手の確保は、これからますます重要になっていくと考えられます。札幌市では、そんな地域コミュニティの中心的存在である町内会の意義や重要性を定める（仮称）札幌市町内会に関する条例の制定に向けて準備を進めると共に、町内会の加入促進や負担の軽減につながる交流策を検討しています。

今回のワークショップでは、町内会の意義や重要性について協議を共有しながら、暮らしやすい地域づくりに不可欠な町内会がこれからその活動を通じていかに必要かについて、ワークショップ形式（少人数のグループで自由に意見を話し合っていく方式）で話し合っていきます。

当さまでいただいたご意見は、今後の市の取組や施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。

日 時

令和4年3月4日（金）13：30～16：30（13：00 受付開始）

- 受付には13：25までにお越しください。「参加者確認票 兼 口頭連絡申出書」をご提出ください。
- ワークショップ会場（研修室 305）の開場は13：00頃を予定しています。

会 場

札幌市教育文化会館3階 研修室 305（札幌市中央区北1条西13丁目）

- アクセス：地下鉄東西線 西13丁目駅 1番出口 徒歩5分
- JRバス、中央バス北1条西12丁目停留所 徒歩1分
- 参加者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただき、近隣の駐車場をご利用ください。
- 交通費、駐車料金は参加者負担となりますのでご了承ください。

＜会場付近案内図＞





当日ご持参・ご提出いただくもの（事前の記載・捺印必要）

「参加者確認票 兼 口頭連絡申出書」……この郵便に同封しています。

- 参加報酬の振込先口座について、「口座振替申出書」欄の必要事項をご記載と捺印をお願いします。
- ご記載にあたっては、「口座振替申出書」欄の注意事項（※1～5）もよくご確認ください。

参加報酬について

全時間等参加された方に、ワークショップ終了後に、参加報酬を口座振込でお支払いいたします。

- 参加報酬は3,000円で、源泉徴収はございません。ワークショップ終了後、1か月程度での入金となります。
- 事前・当日のお支払いや、口座振込以外の方法でのお支払いはいしれません。
- 「参加者確認票 兼 口頭連絡申出書」を当日お忘れになされた場合や、記載に誤りや漏れなどの不備がある場合は、振込が大幅に遅れることがあります。記載内容を今一度よく確認のうえ、当日忘れずにご持参ください。

参加できなかった場合

万一、参加できなかった場合は、必ずご連絡をお願いします。（連絡先は最速に掲載）

- 特段のご事情がない限り、ご出席いただきますようお願いいたします。
- やむを得ず参加できなかった場合は、できるだけ早くご連絡いただきますようお願いいたします。

当日、交通事情などにより遅れる場合

当日遅れる場合も、可能な限りご連絡をお願いします。（連絡先は最速に掲載）

- 天候によっては移動に時間がかかることも考えられます。余裕をもってお出かけください。
- 会場への到着が遅れる場合は、可能な限りご連絡をお願いします。ご連絡がなく、開始時間から相当時間を経過した場合は、ご欠席と判断させていただきます。



新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染予防のため、参加者の皆様は以下の事項をお守りください。

- 参加当日の朝は、検温等により体調をご確認ください。体調不良や発熱等がある場合は参加はご遠慮ください。
- 下記のご持参と着用。
- 入室時の手指のアルコール消毒。
- 受付時の検温。

※ 熱がある方（検温にて37.5℃以上の体温が測定された方等）、咳やくしゃみが出る方、体調不良の方は退出いただき、不参加扱いさせていただきます（この場合、参加報酬はお支払いできません。ご了承ください）。

※ 上記以外についても、主催・運営スタッフの指示をお守りください。指示をお守りいただけない場合は退出いただき、不参加扱いさせていただきます（この場合、参加報酬はお支払いできません。ご了承ください）。

ご参加の皆様やご家族、主催・運営スタッフの健康・命を守るためのお願いです。ご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいませようお願いいたします。

その他

- 敷地内は全面禁煙ですので、敷地内での喫煙はご遠慮ください。
- ワークショップ中は、携帯電話の電源をお切りいただき、マナーモードに設定してください。
- 本日のホームページに掲載するため、写真を撮影いたします。また、ワークショップは公開となりますので、報道機関や記者が入る可能性があります。本市や報道機関が撮影する写真や映像などに取り込む可能性がありますので、ご了承ください。

ご連絡先・お問い合わせ先

平 日 のご連絡・お問い合わせ先

011-211-2253（札幌市役所 市民自治推進課）

ご連絡可能な時間帯：8：45～12：15 または 13：09～17：15

※ 時間外には応答できない可能性があります。また、市役所閉庁日（土曜・日曜・祝日）は応答できませんので、あらかじめご了承ください。

ワークショップ当日（3月4日） のご連絡・お問い合わせ先

090-4873-3561（当日の緊急連絡専用電話）

ご連絡可能な時間帯：令和4年3月4日（金）12：00～13：30

※ 上記時間帯以外には応答できませんので、あらかじめご了承ください。

3 ワークショップの概要

ワークショップは「これからの町内会のために、私たちができることについて考える」をメインテーマに設定して、2部構成で行った。

(1) グループの編成

意見交換は6グループ（1グループ5～6名程度）を作り、ワークショップ①とワークショップ②を行った。ワークショップ①の議論を受けて、ワークショップ②ではより深い内容を話し合うことができるよう、グループの再編成は行わなかった。



また、意見交換を円滑に進めるため、総合ファシリテーター1名と各テーブルにファシリテーターを1名ずつ計6名配置し、参加者の意見を引き出し、まとめた。

(2) ワークショップの流れ

1) 進め方の説明

総合ファシリテーターから、ワークショップの進め方について簡単に説明した。

2) ワークショップ①「暮らしを支える理想的な町内会の姿」（50分）

意見交換のポイント

- あなたの暮らしを支えてくれる理想的な町内会（地域コミュニティ）を考えましょう
- 理想的な町内会（地域コミュニティ）では、4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）はどんな役割を担っているでしょう

3) ワークショップ②「モデルケース町内会から町内会の課題解決のために4主体ができることを考える」（40分）

意見交換のポイント

- 割り当てられた町内会のモデルケースから、具体的に4主体が役割を果たしながら、地域の課題を解決する連携の動きを考える

■モデルケース1：A 町内会（世帯数 200 世帯・集合住宅が多く加入率が低い）

A 町内会の 4 つの課題

- ①パートナーシップ排雪やごみステーションを未加入が利用する不公平に改善を求める声が多い
- ②活動に若い世代の参加者が少なく、高齢化が進んでいる
- ③お祭りの運営費が少なくなっており、会費の値上げも検討されている
- ④防災の取組に力を入れていきたいがノウハウがない。防災機材を置いておく場所がない。

■モデルケース2：B 町内会（世帯数 500 世帯・子育て世代が多く町内会への参加が少ない）

B 町内会の 4 つの課題

- ①子育て世代や現役世代が増えているが、活動に参加してもらうことができない。
- ②LINE や Zoom などを活用した町内会運営をしている町内会があると聞いたが、詳しい人がいないため難しい。
- ③昔から防災に力を入れており、地区防災計画も作っているが、若い世代へ周知できていないと感じる。
- ④安全な通学路のためにパートナーシップ排雪や私設街路灯の設置にも取組んでいるが、費用や人材の面で、町内会の負担が大きい。

■モデルケース3：C 町内会（世帯数 150 世帯・戸建ての多い住宅街）

C 町内会の 4 つの課題

- ①山が近いため、災害時の土砂災害が心配されている。高齢者が多いため、日中に災害があったときの避難対応が課題である。
- ②役員が高齢化し、担い手もいないため兼務により活動している。担い手がない。
- ③行政から町内会への依頼事項が多く、手が回らない。
- ④会館が老朽化により使えなくなる可能性があり、地域の活動拠点の確保が不安である。また、防災機材を置く場所がない。

■モデルケース4：D 町内会（世帯数 700 世帯・集合住宅と戸建て住宅が半分ずつ、企業や大学が立地）

D 町内会の 4 つの課題

- ①学生が多く住んでおり、気軽に手伝いができるようにしたいが、どのような受入体制が必要かわからない
- ②集合住宅の町内会加入率が低く、入居者への声かけや会費徴収が難しい。
- ③コロナ禍でオンラインツールを用いたコミュニケーションの必要性を感じているが、どのように導入すれば良いかわからない。
- ④ごみステーションの利用のルールやマナーが浸透していない。空き地が少ないためごみステーションの設置場所がなく、個人宅の前だと断られてしまう。

5) グループごとの発表

テーブルファシリテーターがグループ内の意見をまとめ、発表を行った。



6) まとめ

総合ファシリテーターが、全グループの発表内容から意見、傾向等をまとめ、確認した。



■町内会の役割

- ・住民相互が助け合い、支え合いながら、暮らしやすい地域コミュニティの維持と形成に努めましょう。
- ・地域住民の参加や加入を促すため、多様な価値観と自主性を大切に、開かれた運営に努めましょう。
- ・必要に応じて、他町内会やまちづくりを行うほかの団体などと連携するようにしましょう。



■地域住民の役割

- ・町内会が暮らしを支えていることを改めて理解しましょう。
- ・住民の皆さんは地域の一員であることを認識しましょう。
- ・暮らしを支えている町内会の意義や重要性を理解し、町内会活動への参加や協力に努めましょう。



■企業・事業者の役割

- ・地域コミュニティにおける町内会の意義や重要性について理解し、町内会活動への参加や協力をしましょう。
- ・住宅販売などの会社や不動産会社は、入居者などに対して、町内会への自発的な加入などに関する情報提供をしましょう。また、町内会の維持や活動の活性化に関する市の施策に協力しましょう。



■行政の役割

- ・町内会の維持や活動の活性化のための施策を実施する。
- ・市として町内会に協力を依頼するものは、負担が大きくならないように配慮する。
- ・市の職員が積極的に町内会活動に参加することを促進する。
- ・市の職員は、職務を通じて、町内会の意義や重要性を理解し、関心を深める。



(3) 情報提供③町内会(組織)が中核となり、4者の連携で地域課題を解決している事例

総合ファシリテーターの株式会社Glocal Design 酒本氏より、町内会組織が中心となって、

地域住民、事業者、行政と連携しながら地域の課題解決を行っている事例を紹介した。

■横浜市港南区「美晴台の道に愛称をつける会」



横浜市港南区「美晴台の道に愛称をつける会」

- ・「美晴台の道に愛称をつける会」を組織
- ・住民とワークショップを開催
- ・地域の交流が進み、子どものイベントなどが開催



道に愛称をつけるワークショップ



美晴台のシンボル原画を制作した公園での楽しいお絵描き会

43

■札幌市南区石山地区 災害図上訓練と炊き出し訓練



札幌市手稲区新発寒地区
災害図上訓練



札幌市南区石山地区 災害図上訓練と炊き出し訓練

46

■ゲストハウスと連携した災害対応



ゲストハウスと連携した災害対応

- 胆振東部地震の際、町内会と連携し避難場所としてゲストハウスが開放され、町内会による炊き出しをするなど、80人近くの地域住民が集まった。



47

■町内会・地域住民・学校・事業者・行政などが連携したゆきあかりイベント



- 町内会・地域住民・学校・事業者・行政などが連携したゆきあかりイベント
- 2つの町内会が中心となりアイスキヤンドルを設置
- 近隣の学校がアイスキヤンドル用ろうそくを製作・提供
- 企業のライトアップ、建設会社にショベルカーによる除雪
- マンション住民にもキャンドル制作
- 行政は活動に用いる資金の一部を助成金として補助、活動チラシの作成を支援



48

■閉鎖した幼稚園を活用した活動の場の整備



- 2014年に閉鎖となった幼稚園の払い下げを受けて、会館をリノベーションした。
- 多様な活動の場として広く利用されており、収益を生んでいる。
- 市の事業の一環として取り組み、リノベーション費用の一部は行政の支援を受けた。



ふくい会館(北海道 札幌市)

49

2 ワークショップ

(1) ワークショップ①『暮らしを支える理想的な町内会の姿』

町内会の役割や活動内容についての情報提供を受け、自身の暮らしを豊かにしたり、もっと安心安全な暮らしができるための町内会のあるべき姿について考えた。排雪やごみステーションの管理など町内会を中心として対応していることや見守りや高齢者・子育て支援など地域コミュニティで連携し支え合っていることなど身近な出来事から考えを深めた。

町内会の理想的な姿から、「町内会」「地域住民」「事業者」「行政」のそれぞれが担うべき役割について検討した。

意見交換のポイント

- あなたの暮らしを支えてくれる理想的な町内会（地域コミュニティ）を考えましょう
- 理想的な町内会（地域コミュニティ）では、4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）はどんな役割を担っているでしょう

(2) ワークショップ②「モデルケース町内会から町内会の課題解決のために4主体ができることを考える」

ワークショップ①で“町内会の理想的な姿”とそのための4者の役割のイメージを膨らませ、ワークショップ②では課題を抱える町内会のモデルケースから具体的に取り組むことを考えた。課題を抱える町内会はそれぞれ世帯数や加入率、住環境が異なる4つのモデルケースを用意した。

ワークショップ②はワークシートを用いて意見をまとめた。

	町内会	地域住民	事業者	行政
日中に災害があつたときの避難対応	事前に地域内の事業者と連携できるような準備支援が必要な人をリストアップ	自力で非難できない人は周りに伝えておく	率先して地域住民の避難に協力	
役員の担い手不足	活動の見直し、負担軽減			
行政から町内会への依頼事項が多い				
地域の活動拠点の確保が不安				

意見交換のポイント

- 割り当てられた町内会のモデルケースから、具体的に4主体が役割を果たしながら、地域の課題を解決する連携の動きを考える

(3) ワークショップ（2日間）の意見のまとめ

1) 求められている町内会の姿

①気軽に挨拶ができる関係性がある

- ・災害時など困った時にお互い支援しやすい関係性が大切
- ・挨拶がわずらわしいと感じる人もいる

②高齢者や子どもなど必要な人への支援や見守りがしっかりできている

- ・高齢者の一人暮らしが増えているため周りが気づいて声をかけてあげることが必要
- ・支援が必要な人がわからない

③町内会へ参加しやすい日時や場所、気軽に参加できる空間や業務量である

- ・参加したいが仕事や子育てで参加できない
- ・参加するハードルが高く感じる
- ・班長など役員の負担が大きい

④わかりやすい情報提供がされている

- ・町内会について知らない人が多い
- ・若い世代への積極的な情報提供が必要
- ・文字だけでなく動画やラジオなどがあるとさらに良い
- ・HP などデジタルツールを活用する
- ・町内会について知らないから参加できない

⑤デジタル化が進められている

- ・スマートフォンでの情報提供、SNSの活用
- ・町内会費の回収をキャッシュレスで行う

2) 町内会、地域住民、事業者、行政に求められる役割

<町内会に求められる役割>

- ・情報提供(チラシや掲示物、スマートフォンのアプリやSNSの活用)
- ・一人一人の負担を減らす工夫をする
- ・気軽に参加しやすいイベントの企画をする

<地域住民に求められる役割>

- ・提案や運営、イベントなどに積極的に参加する
- ・積極的に情報を得ようとする
- ・デジタルツールの使い方を学び活用する
- ・与えられた情報をしっかり見る

<事業者求められる役割>

- ・事業者ならではのイベント、宣伝、グッズ作成、販売の協力をする

- ・災害時などの人材や場所を提供する
- ・町内会の業務の一部を負担する（外注を受ける）
- ・イベントや行事に協賛する

＜行政に求められる責務＞

- ・資金面での支援を行う
- ・町内会組織の人材発掘のための事例紹介や人材育成に向けたノウハウの提供などのアドバイスを行う
- ・行政の広報を使って、町内会の意義や参加のメリットなどの周知を強化し、町内会活動への理解を促してはどうか
- ・デジタルツールの活用に向けた専門的なアドバイスやマニュアルなどの情報提供があると良い
- ・町内会に介入しすぎない関係性をつくる

(4) ワークショップ（3月4日開催分）の結果

1) Aグループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

●わずらわしくない町内会

- ・情報を得ることができる
- ・参加しやすい日時である
- ・活動費用の一部を行政から支援してもらうことができる
- ・全員から気持ち良く挨拶が返ってくる
- ・町内会費の内訳を知ることができる
- ・クリーンな町内会組織である
- ・行政からの育成が行われている
- ・決算書がまわってくる
- ・孤独化（様々な世代）を止めることができている
- ・町内会が場づくりを行っている
- ・町内会組織が場所の提供などの主体となっている

●町内会について知らない

- ・町内会に関わったことがなく、知らない
- ・実家にいたときは大事だと思った
- ・自分にできるか自信がない
- ・町内会について分からない
- ・町内会費を払っている「らしい」という感覚しかない
- ・加入のメリットがわからない

●面倒なイメージ

- ・退職後に知った
- ・好きな人がやっているイメージ
- ・手間がかかるイメージ
- ・会費を集めることを班長に任せきりで班長の負担が多い

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・場づくりの主体となる
- ・クリーンな町内会運営を行う

●地域住民

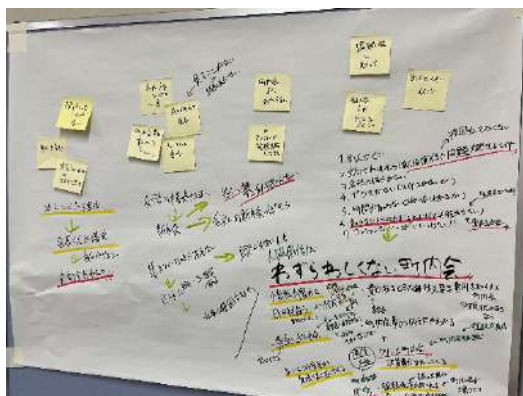
- ・情報を得る
- ・日時があれば参加する
- ・問題を提案する

●事業者

- ・事業者だからこそできる面白い子ども会の開催、参加を促す宣伝

●行政

- ・町内会組織の育成



<ワークショップ2の主な内容>

A 町内会（世帯数 200 世帯・集合住宅が多く加入率が低い）の4つの課題

- ① パートナースhip排雪やごみステーションを未加入が利用する不公平に改善を求める声が多い
- ② 活動に若い世代の参加者が少なく、高齢化が進んでいる
- ③ お祭りの運営費が少なくなっており、会費の値上げも検討されている
- ④ 防災の取組に力を入れていきたいがノウハウがない。防災機材を置いておく場所がない

<ワークショップ2の主な意見>

	町内会	地域住民	事業者	行政
未加入者と加入者の公平さ	・取組を知らせる ・ゴミステーションに未加入者利用禁止」と掲示する	・未加入者にも費用を負担してもらえようように声掛けを行う		・ゴミステーション推進活動を行う
若い世代不足 高齢化	・わかりやすい活動 ・負担を減らす ・イベントのハードルを低くする ・若い世代にできることを伝える	・参加する ・役職などに肩書きをつけてやる気を向上させる	・インセンティブや肩書をつける ・若い社員などに協力をあおぐ	・SNSで発信する

	町内会	地域住民	事業者	行政
町内会費 の 値上げ	・行政と協力して検討する ・費用がないときは無理せず中止する	・チャリティーバザーなど費用がかからず実施できるものを行う	・町内会に協賛をする ・事業者に参加するよう広報する	・事業者に参加するよう広報する ・他町内会の事例を紹介してもらう
防災	・町内会館を機材保管場所として提供する ・広域避難訓練実施（近隣町内会合同で）→防災機材は共同使用する ・避難訓練の際に旗持ち役など、道の先導をする	・広域避難訓練実施（近隣町内会合同で）→防災機材は共同使用する ・訓練に参加する ・自分で備蓄する	・災害時に食糧を提供する ・場所の提供をする ・発電機等の提供をする	・学校の設備を町内会に伝える ・防災のノウハウを提供する ・避難マップを提供する

2) Bグループの意見のまとめ

＜ワークショップ1の主な意見＞

①町内会の理想の姿

●近所を大事にする

- ・高齢者のみまもりができ、会話ができるぐらいの程よい距離感がある

●町内会のことを知ることができると町内会活動に参加したくなるので担い手の発掘になる

- ・そのためには、子どもの時から町内会の活動に参加し、楽しかったという経験が必要

●日常生活を支えるもの・ことを町内会が担ってくれているということを知る

- ・町内会ではゴミや排雪活動といった日常の活動ができていることが必要

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

課題としては町内会の力がなくなっていることと、町内会役員の担い手確保である

●町内会

- ・町内会だけで解決しようとせず、市や他の団体との連携を作る
- ・ゴミやペット、街路樹などの地域の困りを町内会だけで住民に注意するのではなく、市からも注意してもらえようようにフォローしてもらう
- ・子どもや親子連れで参加しやすい行事を行うことで、親世代の町内会への参加のきっかけとなる（お菓子やポイントが得られる）

●地域住民

- ・町内会を知ることができると活動に参画できる
- ・子ども会の活動に参加させる

●事業者

●行政

資金の支援

- ・町内会役員の業務に報酬を出せるように市は町内会に支援する

場所を提供

- ・地域でもっとサークル活動があるとイベントができ地域住民は参加できる
- ・地区センターのようなものがあればイベントができるのもっと開放する

情報の提供

- ・空いている施設の活用を広報する
- ・使える場所やイベントなどの情報を開示する



＜ワークショップ2の主な内容＞

B 町内会（世帯数 500 世帯・子育て世代が多く町内会への参加が少ない）の4つの課題

- ① 子育て世代や現役世代が増えているが、活動に参加してもらえない。
- ② LINE や Zoom などを活用した町内会運営をしている町内会があると聞いたが、詳しい人がいないため難しい。
- ③ 昔から防災に力を入れており、地区防災計画も作っているが、若い世代へ周知できていないと感じる。
- ④ 安全な通学路のためにパートナーシップ排雪や私設街路灯の設置にも取り組んでいるが、費用や人材の面で、町内会の負担が大きい。

＜ワークショップ2の主な意見＞

	町内会	地域住民	事業者	行政
子育て世代や現役世代の参加	・町内会活動等を見える化し参加しやすい環境を作る	・積極的に参加する ・学校や施設の開放をしてもらいそこで参加する	・町内会から相談されたことが行政に届くので、ここから連携・提携できそうな事業者に連絡が入り活動する	・自主的なサークルが発展するような、子育て世代で集えるような場所を整える
LINE ZOOM の活用	・どんな活動を知っているのかを地域住民に伝える	・参加する	・運営や企画の支援	・資金の補助
若い世代への防災の周知	・日ごろから防災訓練を行う ・防災グッズを配る、備蓄庫の食品を出して料理をする体験といった防災訓練を実施する	・町内会の避難訓練の情報を得て体験する ・学校からのお便りといった、公共の場からの情報発信を活用して参加者を増やす	・町内会で実施する避難訓練や学校で行う訓練で防災グッズや食品などを提供し協力する	・町内会で行う事業への資金の補助を行う

	町内会	地域住民	事業者	行政
費用、人材の点で町内会の負担が大きい	・課題を行政に伝える	・課題を行政に伝える	・行政からの情報を得て町内会で支援する人材の補助をする	・連携体制を整える

共通

●行政

- ・補助金を出して欲しい 資金の補助→事業者
- ・情報の窓口の一本化・連携体制を整える

3) C グループの意見のまとめ

＜ワークショップ1の主な意見＞

①町内会の理想の姿

●除雪

- ・除雪排雪の協力機能は地域に必要である
- ・除雪できない世帯が増えてきた。福祉除雪のスタッフは、社協でも足りず NPO に頼んでいる
- ・福祉除雪では玄関前しか除雪されない、屋根上など除雪対象でないところを町内会で対応できるとよい

●高齢者、障がいのある方などとの支えあい

- ・除雪だけでなく家事なども高齢になるとできなくなるため、支え合えるサポーターのようになつなかりができるとよい
- ・特に地域の支援が必要な高齢者は積極的に町内会に入るような声かけができると良い。

●オープンで町内会の情報が入ってくる

- ・会員が多くても参加に繋がらない。若い人たちが気軽に参加できる
- ・参加のきっかけがない。町内会の情報が入ってこない
- ・オープンな運営で町内会の資料を見られるようにするべきである

●地域の安心・安全

- ・ゴミステーションの管理は必要である
- ・街灯の管理
- ・暴力団事務所ができたことがあるが警察と連携して追い出した
- ・マンション住民は何かあったときには管理会社に連絡する。管理会社と町内会の繋がりが大切である
- ・管理会社や不動産会社と町内会のつながりを行政主導でつくれるとよい。
- ・仕事が一段落したら町内会で活動したいと考えている

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・情報をオープンにして、分かるようにする

●地域住民

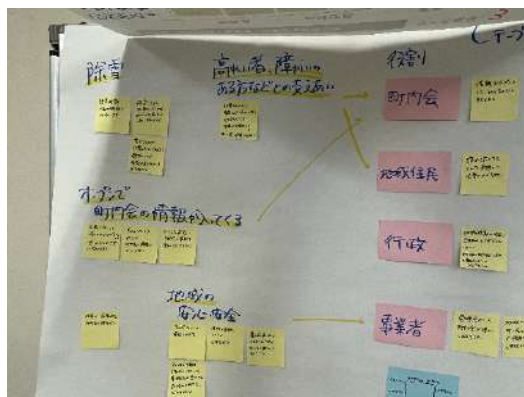
- ・協力したくてもどんな支援が必要かわからない

●事業者

- ・管理会社と町内会が連携しあえるとよい
- ・地域の情報を町内会と管理会社で情報交換できるとよい

●行政

- ・地域活動の役立つ団体を紹介してほしい。行政・町内会・NPOの管轄を超えたコミュニケーションが必要である



<ワークショップ2の主な内容>

C町内会（世帯数 150 世帯・戸建ての多い住宅街）の4つの課題

- ① 山が近いため、災害時の土砂災害が心配されている。高齢者が多いため、日中に災害があったときの避難対応が課題である。
- ② 役員が高齢化し、担い手もいないため兼務により活動している。担い手がない。
- ③ 行政から町内会への依頼事項が多く、手が回らない。
- ④ 会館が老朽化により使えなくなる可能性があり、地域の活動拠点の確保が不安である。また、防災機材を置く場所がない。

<ワークショップ2の主な意見>

	町内会	地域住民	事業者	行政
災害時の避難対応	・民生委員と連携して情報共有 ・要支援者リストを町内会が持っているとい ・記念品を配布して年代を把握	・支援が必要な方は申し出る	・学校と連携して子供たちも巻き込んだ活動 ・協力できそうな事業者があれば、災害時の協力体制を作れるといい	・市の出前講座を頼んで、地域の防災の考えるきっかけを作る
担い手がない	・サポーター制度のような受入体制を作る ・仕事内容をしっかり説明し、断られても余裕があるようにする	・時間が許される範囲で手伝うようにする	・一部の仕事を負担してもらう ・負担を減らすためにデジタル化を進める ・回覧板をLINEにすることで負担を	・負担を減らすためにデジタル化を進める

	町内会	地域住民	事業者	行政
			減らす(事業者、行政から情報提供)	
行政からの依頼事項が負担	・できないことは断る			・町内会への業務を必要最低限に絞る
地域の活動拠点の確保、防災機材の保管場所	・公園に置いた機材のまわりの手入れは町内会で行う		・イベントなどは保育園などを使わせてもらうようにする	・建替えなどには市の補助があるとよい ・防災機材は公園に置かせてもらえるようにする

4) Dグループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

●顔が見える

- ・住んでいる人同士が顔見知りの関係で安全安心である

●災害時の助け合いや情報が届く

- ・災害対応や大雪の情報を知らせてくれる

●ごみの管理・環境が良い

- ・ゴミの回収がしっかりしていて清潔感がある
- ・地域全体を維持管理する役割として、町内会的な組織はあった方がよい

●子育てしやすい

- ・子ども会や子どもの見守りがあり、安全なまちである

●いろいろな交流を行うための拠点がある

- ・多世代の交流があるとよい
- ・役員が集まる場所として会館がないと困るので集まる拠点があった方がいい

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

情報発信（デジタル活用）を行う

- ・会員にはメールなどで情報発信をする
- ・会費が何に使われているか知らせる
- ・住民に町内会があることのメリットを伝える

住民と気軽にコミュニケーションできる機会をつくる

- ・会員との気軽なコミュニケーションを取る
- ・会館や身近なカフェを活用して、その機会をつくる

組織の担い手を見つける

- ・担い手がおらず、役員のなり手も少ない
- ・単位町内会と連合町内会の役員を兼務する例が多く、大変である
- ・組織の再編（スリム化）や担い手を探すことを地道に行っていく

世帯構成に合わせた会費制度を設ける

- ・戸建て住宅、賃貸集合住宅、分譲集合住宅などの住居別や、夫婦世帯、子どもと3人暮らし世帯、若年単身者など家族構成別によって会費制度が分けられているといい
- ・正会員（パートナー排雪の対象となる）、準会員（ごみステーションへのごみ捨て可能のみ）

などで分かれていると、若い世代の人も会費を払いやすいのではないかと

●地域住民

町内会に興味・関心を持つ

- ・町内会のことを知らない人が多い。単身者は特に知らない、興味を持たない
- ・住民に単身者が多いと、あまり町内会と関わってくれない
- ・まずは町内会がどんな活動を行っているか知ることから始める

●事業者

役員業務の特典を付与する（町内会と連携）

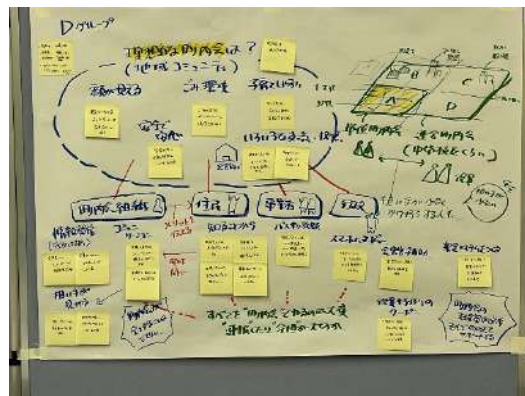
- ・町内会役員の仕事は大変なイメージがある。仕事をしながら行うことは難しい
- ・役員業務を行っている人には報酬や特典があった方がいい
- ・例えば、バス会社と町内会が連携して、役員になっている人は公共交通の運賃が安くなるクーポンや1日乗り放題特典などを設ける

●行政

デジタルツールに対応した情報発信を支援する

- ・スマートフォンで見ることができるよう、リアルタイムの情報発信をしてもらう
- ・会館の使用料金を補助する
- ・役員や会員が会館を使う際に、費用の補助をする集金システムをつくる
- ・1軒ずつ集金を集めることは班長の労力が掛かる
- ・改善できるように、銀行などと連携した集金システムを作ってもらえると良い。役員特典のクーポン制度を設ける
- ・町内会役員を対象に、行政が管理する施設をいつでも使うことができるクーポンを配布する
- ・クーポンがあることで、少しは役員業務をやってくれるのではないかと

<ワークショップ2の主な内容>



D 町内会（世帯数 700 世帯・集合住宅と戸建て住宅が半分ずつ、企業や大学が立地）
の4つの課題

- ① 学生が多く住んでおり、気軽に手伝いができるようにしたいが、どのような受入体制が必要かわからない
- ② 集合住宅の町内会加入率が低く、入居者への声かけや会費徴収が難しい。
- ③ コロナ禍でオンラインツールを用いたコミュニケーションの必要性を感じているが、どのように導入すれば良いかわからない。
- ④ ごみステーションの利用のルールやマナーが浸透していない。空き地が少ないためごみステーションの設置場所がなく、個人宅の前だと断られてしまう。

＜ワークショップ2の主な意見＞

	町内会	地域住民	事業者	行政
学生の受入れ体制	・若い方と接点を持てそうなイベントや交流の機会をつくる ・町内会の地域のカフェで使えるフリーチケットを町内会の事業として作り、学生に配布する	・大学の授業の環境で町内会活動を体験する(単位になる) ・町内会から活動体験の企画を依頼し、研修室単位などで参加してもらう	・大学は町内会と連携して、学生が町内会活動を体験できるように授業などで取り扱う ・大学の授業として町内会活動の支援を取り扱うことで、学生が単位を貰えるようにする	・まちづくりセンターが事業者や大学と町内会をつなぐ役割を担う ・町内会と事業者等が連携して取り組んでいる事例集を作り、町内会に配る
集合住宅の町内会加入率 会費の徴収	・加入を募るチラシを作って全戸配布を行う。 ・除排雪費用や町内会費の集金業務を軽減するため、キャッシュレス決済（Paypay等）を導入する ・導入後は、会員に新たなメリットとして知らせる	・デジタルツールに対応する ・キャッシュレス決済で会費や除排雪費の支払いができることを知る	・キャッシュレス決済を町内会、行政とともに検討する ・新たな会費集金のシステムを行政などと一緒に検討する	・キャッシュレス決済導入の支援を行う ・徒歩で行っている集金のシステムのデジタル化を事業者と一緒に構築する
オンラインツール	・学生に声を掛けて教えてもらう		・学生と一緒に研究室単位でオン	・町内会の中にオンラインツールの

	町内会	地域住民	事業者	行政
の導入	(得意な人に声を掛ける) ・学生を含む地域住民にアプローチする。 ・デジタルツールに慣れるため、情報伝達はメールを使用するようにする ・デジタルツールでの連絡をメインとする		ラインツールの使い方を教える ・町内会活動の体験、支援活動の一環で教える機会を作る	使用に長けている人が居住している可能性がある ・学生など若い世代がアクセスしやすいようなポータルサイトの立ち上げ支援を行う
ゴミの管理	・近隣の民有地や公地に、ごみステーション設置ができるように打診する ・ごみステーションを広告掲載ができるような仕様とし、広告料をもらって設置費用を賄うような運営を行う		広告を掲載できるごみステーションの開発と提供を行う ・デジタルサイネージで広告を掲載できるごみステーションがあると良い ・行政などに支援してもらいながら開発を行う	・公地でごみステーションの設置場所を確保できるか、町内会へ設置支援を行う ・ごみステーションの場所が民有地になる場合は、設置費用や賃料の負担を補助する

5) Eグループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

●町内会について

- ・回覧板が負担
- ・見守りができない
- ・隣の部屋の人が分からない
- ・班長の作業が負担である
- ・声を掛ける程度で良い
- ・町内会はわずらわしい
- ・回覧板が大変
- ・環境によって対応が必要
- ・災害時の連絡先の共有が必要
- ・避難所までの移動を考える必要がある
- ・行事に参加できない
- ・町内会に入らない方が多い
- ・災害対策が不安

●助け合いができる町内会

- ・困った時に頼りになると良い
- ・回覧板が電子化されると良い
- ・防災計画がある
- ・交流や行事が盛んな町内会が良い
- ・助け合いが町内会でできる
- ・子供も安心できる
- ・見守り活動や助け合い
- ・高齢の方が安心できる町内会

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・イベントを企画して住民に提供する
- ・住民と行政を繋ぐ
- ・事業者への依頼をする

●地域住民

- ・行事へ参加する
- ・自発的な行動を行う

●事業者

- ・行事への手伝いをする

●行政

- ・生活基盤を上げる
- ・町内会の要望を聞く
- ・補助金の提供をする



<ワークショップ2の主な内容>

A 町内会（世帯数 200 世帯・集合住宅が多く加入率が低い）の4つの課題

- ① パートナーシップ排雪やごみステーションを未加入が利用する不公平に改善を求める声が多い
- ② 活動に若い世代の参加者が少なく、高齢化が進んでいる
- ③ お祭りの運営費が少なくなっており、会費の値上げも検討されている
- ④ 防災の取組に力を入れていきたいがノウハウがない。防災機材を置いておく場所がない

<ワークショップ2の主な意見>

	町内会	地域住民	事業者	行政
未加入者と加入者の公平さ	・呼びかけを続ける	・意識してもらえるように『ゴミ半分活動』をする	・不動産と協力して入居時に管理費として設定する	・パートナーシップの説明をもらう ・ゴミ出しのセミナーを行う
若い世代不足、高齢化	・子供向けのイベントを企画する ・気軽な町内会運営をする	・町内会のメインストリートでイベントをやる ・若い世代にも関心を持ってもらう	・交流ができるような動きを行う ・飲食店やスーパーとカフェと協力して子供が参加しやすいイベント	・行政に協力してもらって道路を使えるようにする

	町内会	地域住民	事業者	行政
			を行う	
町内会費 の値上げ	・事業縮小をする ・アンケートを行って確認すると良い			・交通や道路を使えるように要望する
防災	・実際に体験できるイベントをする ・町内会に置けると良い			・防災に詳しい方を呼びセミナーを開催する

6) Fグループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

●町内会について

- ・あいさつができる
- ・負担のかからない参加ができる
- ・高齢化することで時間のある人が増えて、町内会活動が活性化する
- ・盆踊り・運動会などの参加するイベントが多い
- ・ごみステーションの管理を通じて交流しており、そこから町内会活動につながっている
- ・ラジオ体操など子どもの参加が少なくなっている
- ・日頃から交流がないためどのように町内会に参加していいかわからない
- ・一人暮らし高齢者が心配、見守りが必要な人がある
- ・イベント（麻雀・ボウリング・パークゴルフ）がたくさん←人付き合いで誘って参加→活性化

●あいさつがとびかう→入りすぎない繋がり

- ・ちょうど良い距離感が必要である

●日頃の繋がり（除雪・ごみの管理）→交流→災害時に助かる

- ・ゴミステーション：住人が発意（気づき）→町内会長に伝え（行動）→会費で賄った（コロナで余った町内会費や行政の補助）→事業者が設置

●ちょっとした困り事→相談できる場所（町内会）→行政が相談や補助

- ・ちょっとした困りごとを相談できる場所として町内会があると良い。
- ・日頃から子育てサロンや地域食堂などで町内会との地域住民のつながりがあると良い。

●負担を掛けないで参加してもらう

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・関係性の距離感がちょうどよく、参加しやすい町内会にする
- ・ちょっとした困りごとを相談できるような地域住民とのつながりを作る
- ・地域住民の困りごとに対して迅速に行動し、事業者や行政などと連携する

●地域住民

- ・イベントやサロンに参加する
- ・困ったことなどがあれば町内会に気軽に相談する

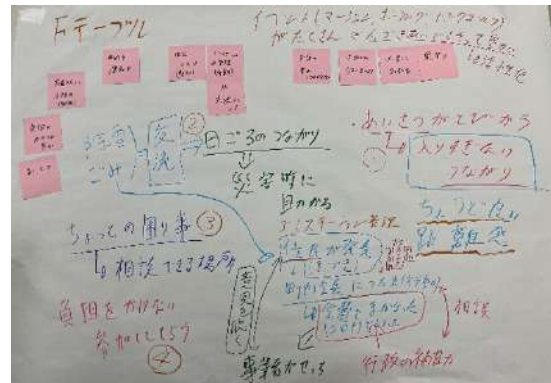
●事業者

- ・イベントの運営や企画の手伝いをする

- ・町内会からの依頼を受け、設備や人材を用意する（必要経費は町内会から出す）

●行政

- ・資金的な補助を行う
- ・町内会の困りごとに対して事業者や行政の他部局などと連携しやすいようなフォローを行う



＜ワークショップ2の主な内容＞

B町内会（世帯数500世帯・子育て世代が多く町内会への参加が少ない）の4つの課題

- ① 子育て世代や現役世代が増えているが、活動に参加してもらえない。
- ② LINE や Zoom などを活用した町内会運営をしている町内会があると聞いたが、詳しい人がいないため難しい。
- ③ 昔から防災に力を入れており、地区防災計画も作っているが、若い世代へ周知できていないと感じる。
- ④ 安全な通学路のためにパートナーシップ排雪や私設街路灯の設置にも取り組んでいるが、費用や人材の面で、町内会の負担が大きい。

＜ワークショップ2の主な意見＞

	町内会	地域住民	事業者	行政
子育て世代や現役世代の参加	・町内会活動等を見える化し参加しやすい環境を作る	・積極的に参加する ・学校や施設の開放をしてもらいそこで参加する	・町内会から相談されたことが行政に届くので、ここから連携・提携できそうな事業者に連絡が入り活動する	・自主的なサークルが発展するような、子育て世代で集えるような場所を整える
LINE ZOOM の活用	・どんな活動を知っているのかを地域住民に伝える	・参加する	・運営や企画の支援	・資金の補助
若い世代への防災の周知	・日ごろから防災訓練を行う ・防災グッズを配る、備蓄庫の食品を出して料理をする体験といった防災訓練を実施する	・町内会の避難訓練の情報を得て体験する ・学校からのお便りといった、公共の場からの情報発信を活用して参加者を増やす	・町内会で実施する避難訓練や学校で行う訓練で防災グッズや食品などを提供し協力する	・町内会で行う事業への資金の補助を行う
費用、人材の面で町内会の負担が大きい	・課題を行政に伝える	・課題を行政に伝える	・行政からの情報を得て町内会で支援する人材の補助をする	・連携体制を整える

(5) ワークショップ（3月6日開催分）の結果

1) Aグループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

●楽しくてクリアでフラットであり、情報が勝手に来る町内会

- ・気軽に提案できて行政が入りすぎない
- ・ゴミステーションを運営していることなどをアピールする場があると良い
- ・掲示板をもっと活用する
- ・市広報（行政）～TV・SNS・メールなど多様な媒体を使った広報活動を行う必要がある
- ・自分から取るのではなく情報が勝手に来る

●理想的な町内会とは

- ・仕組みを作る人間（住人）が何人かほしい
- ・押し付けない
- ・長く住んでいる方が役員をやっている
- ・加入促進の伝え方にシェアがある
- ・事業者が主体をやってもらう
- ・大家から町内会に加入するよう一言あるコミュニティ
- ・行政からの支援も欲しい
- ・行政が「介入しすぎない」ことが大切である
- ・町内会のメリットがわからない
- ・どこで誰が何をやっているかわかる→話し合いの場に行政が直接入る←行政
- ・会合っぽくない→年齢問わずフラットに話せる組織
- ・声掛けが活発で孤独死がゼロのコミュニティ

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

●地域住民

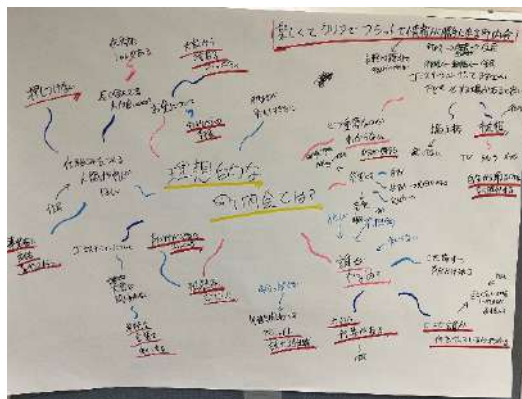
- ・仕組みを作る人間（住人）が何人かほしい
- ・土日に行事があると良い

●事業者

- ・災害時は充電させてもらえるなど協力してもらえると良い

●行政

- ・お金について 行政から支援があると良い
- ・市広報（行政）～TV・SNS・メール等
- ・話し合いの場に行政が直接入るとよい



＜ワークショップ2の主な内容＞

A 町内会（世帯数 200 世帯・集合住宅が多く加入率が低い）の4つの課題

- ① パートナースhip排雪やごみステーションを未加入が利用する不公平に改善を求める声が多い
- ② 活動に若い世代の参加者が少なく、高齢化が進んでいる
- ③ お祭りの運営費が少なくなっており、会費の値上げも検討されている
- ④ 防災の取組に力を入れていきたいがノウハウがない。防災機材を置いておく場所がない

＜ワークショップ2の主な意見＞

	町内会	地域住民	事業者	行政
未加入者と加入者の公平さ	- 一度排雪に関して細部まで金額などを話し合う - 未加入でも利用できるようにする			- 幹線道路の排雪を優先する - ダンプ・重機・人の確保
若い世代不足 高齢化	- 若い世代が興味を持つような活動をする - 話し合い、接し合いの仕方に工夫必要（テーマづくり） - 若い世代、独身者、マンション暮らしの人に情報発信を強化する - 地域住民や町内会活動の紹介を	- メールで来たものをしっかりと読む - 町内会の消滅を待つ		- お金を担い手に届く仕組みを作る - 地域おこし協力隊に町内会運営を頼む

	町内会	地域住民	事業者	行政
	行い参加しやすい環境を作る			
町内会費の値上げ	・町内会費の値上げの必要性を追究し、統一した結論を出す	・排雪は値上げしても構わない ・お祭りは中止でも良い	・スポンサーを募集する	
防災	・取り組まない、で きることに絞る ・小学校に防災機 材を設置しては どうか		・災害でも使える サービスを提供 する ・防災ノウハウがな い→市・事業者 による防災セミナ ーの開催	・行政に町内会館 に発電機・防災 資材を保管。災 害があった場合 に備える ・避難マップを提 供してもらう

2) Bグループの意見のまとめ

＜ワークショップ1の主な意見＞

①町内会の理想の姿

●除排雪や清掃、ゴミなど日常生活において無くてはならないところが整っており、高齢者の見守りができ若い人の参加もあるあたたかく積極的な環境であること

●日常生活を送る上でなくてはならないことができているとよい

- ・除排雪が行き届いている
- ・清掃やゴミステーションの管理がしっかりできている
- ・清掃活動は高齢の方の参加が多いので、若い方の参加も呼びかけたい
- ・パートナーシップ排雪はありがたい

●あたたかく、積極的な活動があるとよい

- ・若い人に町内会の活動に参加して欲しいので、活動の情報が伝わる必要がある
- ・若い人が参加できるように、平日の日中だけでなく、時間があうような取り組みあるといい
- ・町内会に入っていない人が、平然とゴミ出しをして清掃をしないという不公平感が払拭できるように町内会の活動を知らせる
- ・高齢者の見守りは必要である
- ・町内会の活動として、学校・病院・薬局などと連携して防災訓練を行うとよい
- ・現在、中央区の町内会では防犯・防災マップを作成しているところもある
- ・民生委員と町内会との連携があると、地域だけではなく行政の見守りとして充実できる

●町内会の“見える化“町内会の活動が見えるようになることが必要

- ・回覧板があるところは、もっと活動を会員に届けられると良い
- ・文字だけでなく、HP などがあると画像で町内会の活動を届けることができる
- ・HP や回覧板だと、構成を考えたり文章を書いたりという町内会側の手間がかかる。見る側もその為に、パソコンや回覧を見ないといけない。地域のラジオ局があると管理側は情報を話すのみで負担が少なく、聴く側も何かをしながら聞くことができるので良い
- ・このようなデジタル環境を整える為に市から補助が出ると良い
- ・パソコンなどの媒体での町内会の情報の発信は、役員に高齢の方が多いと取り組むのが難しい
- ・中央区の町内会では、雪あかりのイベントを隣の町内会と連携して開催している

●現状、町内会の情報が届かないことでの課題と考えられること

- ・若い人は高齢者宅の除雪を手伝うなどの活動を行いたいけどどの様に活動したら良いかわからない
- ・町内会や地域の為に貢献したいが、地域でどの様な活動があるのかわからない
- ・地域によって町内会の情報の届きかたには差があるので、札幌市が把握して市民に一律で伝えることができると良い

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会 地域の住民に町内会の情報を届けオープンな町内会を目指す

- ・町内会は会計報告や活動報告を会員へしっかり届ける
- ・町内会は回覧板の内容に活動や地域の楽しい情報を掲載し届ける回数を増やす

●地域住民 積極的に地域の活動に参加する

- ・町内会や地域の活動がわかると参加が増える
- ・地域の店舗と連携し町内会活動に参加すると使えるクーポンを得ることができるなど、お得な情報があると参加が高まる

●事業者 地域の店舗やマンションが地域の活動に協力する

- ・商店が町内会のイベントに参加するとクーポンを得ることができ、地域の店舗の利用が増える
- ・マンションでは町内会の情報を得ることが困難なところが多いので、管理者が掲示板などを活用して町内会の情報を伝える

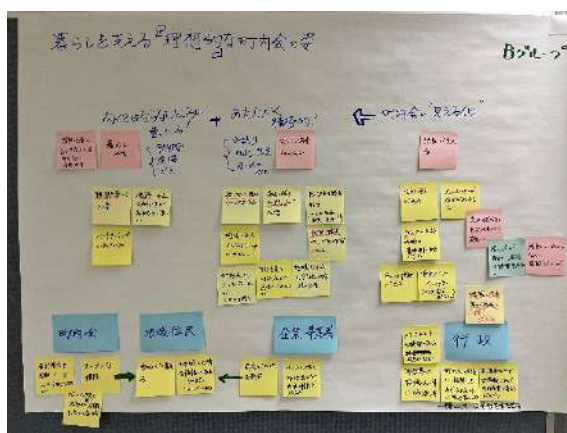
●行政

- ・町内会でのカラスやハトの被害といったことがあるが町内会側だけの指導ではなく行政からの指導もお願いしたい
- ・除雪等の設備を地域ごとに一律にして欲しい（側溝が各町内会にあると、地域の若者が排雪を行うことができる）
- ・町内会の役員に報酬を支払うことができるようになると担い手不足の解消になると考えられるので、行政からの補助が欲しい
- ・町内会費は各町内会で金額を設定するが、これを札幌市の中で一律にする。世帯数によって町内会費の集まりが違くと活動の制限もあると思うので、公平性を持たせ、活動が困難なところは行政からの補助があるという仕組みにすると良い

＜ワークショップ2の主な内容＞

B 町内会（世帯数 500 世帯・子育て世代が多く町内会への参加が少ない）の4つの課題

- ① 子育て世代や現役世代が増えているが、活動に参加してもらうことができない。
- ② LINE や Zoom などを活用した町内会運営をしている町内会があると聞いたが、詳しい人がいないため難しい。
- ③ 昔から防災に力を入れており、地区防災計画も作っているが、若い世代へ周知できていないと感じる。
- ④ 安全な通学路のためにパートナーシップ排雪や私設街路灯の設置にも取り組んでいるが、費用や人材の面で、町内会の負担が大きい。



〈ワークショップ2の主な意見〉

	町内会	地域住民	事業者	行政
子育て世代や現役世代の参加	・子育て世代・現役世代が参加できる活動を企画する ・町内会だけでは開催が困難で地域の事業者の協力を得たいところ等の相談や要請を行政にする ・雪あかりイベント、歌を作る、盆おどりを考えるなど町内会で楽しいイベントを考えると参加者が興味を持って自主的に参加してくれる	・地域住民は、町内会の情報にアンテナをはり、情報を積極的に入手することが必要	・町内会のイベントを地域の住民がよく訪れるコンビニやレストラン、カフェに掲示し情報発信の協力をする ・各店舗で、町内会のお知らせのチラシ等の配布の協力をする ・幅広い世代が活用するところで地域住民が情報を得ることができる様に協力する	・市がHPを作成し、他の地域の活動が見える様にする ・LINE等のSNSで発信する ・イベントへの助成を充実させる
LINE ZOOM の活用	・町内会の役員さんが地域の事業者や店舗で開催する講習会などに参加して学ぶ ・町内会での講習会の開催では事業者も入ってもらって組織化する	・地域住民は町内会の情報にアンテナをはり、情報を積極的に入手することが必要	・土日など、地域住民が多数参加できる日程を検討し、ノウハウを教える研修会を開催する	・町内会からの相談や要請があれば、その地域で協力できそうな事業者を紹介したり補助金の支援をしたりする
若い世代への防災の周知	・町内会で防災訓練(消火器の使い方、新聞	・地域の小学校や中学校に町内会で防災訓	・町内会での防災訓練の実施の際には、地域	・町内会で防災訓練を行うという連絡が行政に

	町内会	地域住民	事業者	行政
	紙スリッパの作り方等)を実施する • 実際の災害時でも使用できる様な景品を用意する(非常食、おかし等)	練を実施することの周知を依頼する • 小学校で募集すると、子どもと保護者が参加するという形ができるので良い • 学校に協力してもらおうと参加の効果が高い	のカフェ、レストランと連携しケーキをプレゼントする • この様なサービスがあるところの後もカフェを理由する人が増えカフェの利益も上がる	入った場合、その地域の消防団や消防署の協力を要請する
費用、人材の点で町内会の負担が大きい	• パートナーシップ排雪に頼るだけでなく、側溝を作ってほしいと行政に要請し地域でできることは地域で行う	• 若い人が積極的に地域の除雪を手伝う	• 行政からの要請を受け、地域への協力体制を整えるなどの管理を行う	• 町内会への支援計画を立てる

3) C グループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

● “参加 “で協力する機会がある

- ・子ども会などに参加したことがある
- ・お祭りなどに参加したことがある
- ・参加するきっかけとなるイベントがあると良い

●町内会の情報がしっかりと入ってくる

- ・情報が入ってこないなので、なにをやっているかをわかるようにしてほしい
- ・活動の効果が良く分かるように YouTube など動画まとめるといい
- ・発信の方法も世代によるのではないか
- ・回覧板は残してデジタルを取り入れるのがいいのでは
- ・

- ・単身世帯は損しているように感じる人もいる
- ・世代や立場ごとにどんなメリットがあるか明確にしてほしい
- ・町内会のサービス一覧があり、必要なサービスを選べるといい

●防災・防犯のため、顔を合わせてのあいさつ・繋がりのある関係

- ・防災としても隣の人の顔を見ることができたり、連絡がつくように LINE や電話で繋がっているといい
- ・高齢の一人暮らしでも町内会を抜ける人も多い
- ・本当は必要な人が入っていない
- ・除雪であいさつをするようになっている

●働きながらも活動に参加できる

- ・ボランティアで活動するのも限界ではないか
- ・活動できる時間・曜日で自由に活動できるようにする

●その他

- ・テーマを絞って活動できるとメリハリがつくのではないか
- ・新しく入居すると班長を任される決まりで困った。ちゃんと説明してもらうように変えた
- ・班長をやって顔の見える関係となった

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・情報をオープンに、会費や活動内容などを公開する
- ・手軽に情報を得たり、若い世代でも参加しやすい仕組みをつくる
- ・町内会に入るとサービスが受けられるというメリットを伝える
- ・お金のやり取りを今後は考えていくべきではないか

●地域住民

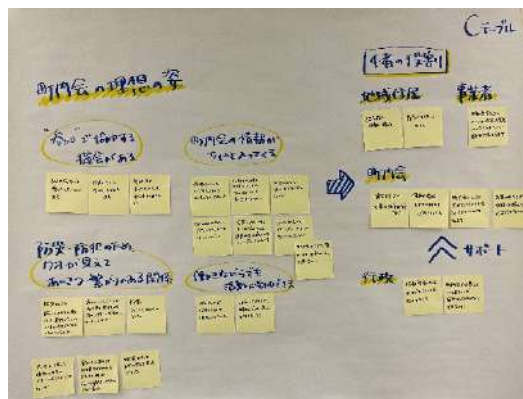
- ・仕事や家庭のなかでも、できる限り町内会の行事や取組に参加する。
- ・関心を持ってもらう

●事業者

- ・不動産会社はマンション住民入居者にパンフレットなどで町内会を紹介する

●行政

- ・情報発信の方法などノウハウを教えてあげる。
- ・町内会が必要な人にはある程度強制で入れるようにできないか



<ワークショップ2の主な内容>

C 町内会（世帯数 150 世帯・戸建ての多い住宅街）の4つの課題

- ① 山が近いため、災害時の土砂災害が心配されている。高齢者が多いため、日中に災害があったときの避難対応が課題である。
- ② 役員が高齢化し、担い手もいないため兼務により活動している。担い手がない。
- ③ 行政から町内会への依頼事項が多く、手が回らない。
- ④ 会館が老朽化により使えなくなる可能性があり、地域の活動拠点の確保が不安である。また、防災機材を置く場所がない。

<ワークショップ2の意見まとめ>

	町内会	地域住民	事業者	行政
災害時の避難対応	・班単位で顔の見える関係を築く ・避難するときのマニュアル作りして、4者で共有 ・実際に避難訓練をしてみる、4者連携のきっかけとする ・仕事に出ている人への状況伝えることも大切、ネットワークがあると良い	・世帯の情報を提供する、具体的な家庭の状況を伝える ・防災無線・テレビも効果的では？（このくらいの規模なら）	・避難するときに高齢者に気に掛けてもらえるように依頼する ・高齢者に配慮しながら避難できるような支援体制をつくる	・事業者にと交渉するときに仲介に入ってもらえるとスムーズではないか
担い手がない	・ボランティアは限界があるので有償でやる	・得意なことを活かす+有償もありではないか	・カフェなどでオープンな町内会活動をする	

	町内会	地域住民	事業者	行政
	・仕事を見直し役員の負担を減らす	・自身の得意なことを活かして活動できるとよい	・地域のカフェなどで場所を借りて町内会についての意見交換会(ワークショップ)を開く	
行政からの依頼事項が負担	・頼めることのルールを町内会と行政で決める	・みんなで協力して取り組む意識を持ってもらう		・行政のデジタル化も必要 ・紙で配布しなくてもいいものはメールやLINEでやってもらう ・“本当に必要な情報か”を精査する
地域の活動拠点の確保 防災機材の保管場所	・会館+保育園、デイサービスなど交流拠点とする ・防災拠点として使えるなら建替えがあってもいいか ・空き家をリノベーションしてはどうか ・建替えるなら会館+保育園・デイサービスなどを営業して儲けられると良い			・建替え費用は一部行政に支援してもらう

4) Dグループの意見のまとめ

＜ワークショップ1の主な意見＞

①町内会の理想の姿

●ごみがなく綺麗な町内会

- ・ごみステーションの管理がしっかりされていると暮らしやすい

●お祭りなど賑わいがある町内会

- ・町内会でお祭りをひらいているイメージがある

●子ども向けの活動がある町内会

- ・共働きしている人は活動に関わる時間がない
- ・共働きしている世帯にとっては、町内会が学童保育などを行っているありがたい

●多世代の交流がある町内会

- ・交流につながる旅行などがある
- ・高齢の方と多世代の交流があるといい
- ・新たに町内会に入ってくる子育て世代の方などと交流がある

●どんな活動をしているか見える町内会

- ・除排雪、ごみステーションの管理、街路灯の維持管理など、さまざまな活動を行っているが、会員は知らないことがほとんどではないか
- ・町内会をよく知っている人と全く知らない人がいて、情報に格差が生じている
- ・町内会側の発信も少ないのではないか
- ・マンションの人は特に町内会を知らないと思う

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・町内会の取り組みや活動もニーズが低いものは少なくした方が次の人が担いやすい
- ・デジタルツールを駆使した情報発信を行う
- ・戸建て住宅とマンションなどの集合住宅両方に届くような SNS を使った情報発信を行う

●地域住民

- ・自分の地域や町内会を知ること、どんなことをやっているか理解するようにする

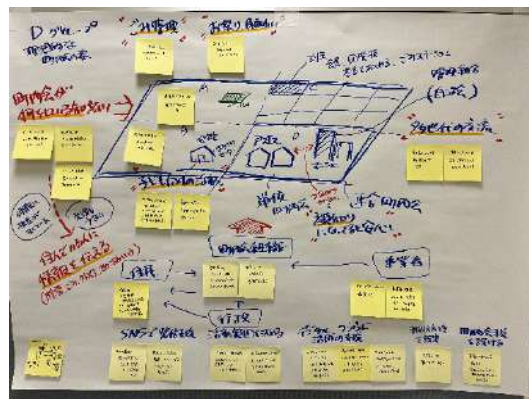
●事業者

- ・町内会主催のイベントや行事のときに協賛する
- ・事業規模に応じた会費を町内会に支払う（企業会員制度などを設ける）

●行政

町内会の活動範囲の基準を設ける

- ・町内会に最低限してもらいたいことを基準として作った方がいい
- ・町内会によっては数多くの事業を行っているところがあれば、わずか少しの事業のみのところもある
- ・居住している町内会の活動が少なすぎると「別に参加しなくても良いのではないか」と思われる。そうならないように、行政側で町内会にお願いしたい基本活動（ごみ、除排雪は必須など）を決める方がいい
- ・デジタル・クラウド活用に向けた支援を行う（アドバイザー等の派遣）
- ・デジタルツールの使い方や会計の様式を作る、教える人などを派遣する町内会の活動事例をつくる（WEB サイトなどを活用）
- ・暮らしやすい地域になるように頑張っている町内会の事例を教える
- ・ワンクリックで町内会の取り組みページにアクセスできると良い
- ・町内会が取り組んでいることを行政から発信する
- ・報酬制度を設定する→役員には報酬があるといい
- ・町内会税を設ける→会費の集金をいちいち行うことは班長も面倒である。また、会費の未払いが発生しないように税制度を設けてはどうか



＜ワークショップ2の主な内容＞

D 町内会（世帯数 700 世帯・集合住宅と戸建て住宅が半分ずつ、企業や大学が立地）の4つの課題

- ① 学生が多く住んでおり、気軽に手伝いができるようにしたいが、どのような受入体制が必要かわからない
- ② 集合住宅の町内会加入率が低く、入居者への声かけや会費徴収が難しい。
- ③ コロナ禍でオンラインツールを用いたコミュニケーションの必要性を感じているが、どのように導入すれば良いかわからない。
- ④ ごみステーションの利用のルールやマナーが浸透していない。空き地が少ないためごみステーションの設置場所がなく、個人宅の前だと断られてしまう。

＜ワークショップ2の主な意見＞

	町内会	地域住民	事業者	行政
学生の受 入れ体制	・ボランティアサークルと連携 ・大学祭で町内会活動をPRする ・町内会側から大学側にアプローチして大学祭に参加して、町内会ブースを作って活動をPRする		・大学は町内会と連携して学生のボランティア活動をする ・大学及び学生に協力してもらい町内会主催の学習塾をまちづくりセンターで開く ・就職活動に活かせる経験として、履歴書に書けるボランティア活動として取り組む ・大学の学生課が窓口になって、町内会と学生を繋げる ・大学と町内会の両方の相互利益につながる取り組みになると良い	・町内会や事業者をつなぐコーディネート支援を行う（※他の課題にも共通） ・まちづくりセンターなどが入って町内会と事業者、大学などとの連携を仲介する支援を行う ・町内会からの相談を受け付けて、大学や事業者とつなぐ ・サポーター・アドバイザーを派遣する（※他の課題にも共通） ・町内会の活動をサポート、アドバイスを行うことができる支援者を派遣する
集合住宅 の 町内会加 入率 会費の徴 収	・賃貸住宅から会費集金を進める際は、管理会社と連携することが必要である		・管理会社が町内会活動を入居者に説明・PRする ・集合住宅の管理費のなかに会費を含めて徴収する（管理会社が取り組む）	・町内会活動の入居者への説明などを、管理会社に求める
オンライ ンツール の導入	・行政や事業者、大学に相談する ・学生などに手伝		・町内会と連携して大学がデジタルツールの使い	・地域の中にITに詳しい企業がいる場合は町内会

	町内会	地域住民	事業者	行政
	って欲しいことを行政や事業者、大学に伝える ・共通ポータルサイトを作る ・大学も住民も管理、閲覧できる町内会情報を受発信できる WEB サイトを設ける		方を教える ・オンライン活用の仕方や使い方を教える。サーバーは町内会で保有する	にその旨を教える
ゴミの管理	・集合住宅の前にもごみステーションを設置する			・ごみステーションの設置費用補助・PR ・町内会に対してごみステーションの設置費用を補助する。 ・ごみステーションのルール・マナーの啓発をする。

5) Eグループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

●交流

- ・イベントに参加する程度の関係性が良い
- ・個人的なことを話したり、気を使ったりするような人間関係を築くことは避けたい

●協力

- ・業務内容の明確な提示があるとよい
- ・NPOなどの団体と協力
- ・学校との協力

●子育て

- ・子供や高齢者の集まり
- ・子育て関係
- ・若い世代を教育する
- ・他世代の交流

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・活動事に組織を作成
- ・町内会活動の周知
- ・サロンなどのコミュニティの作成

●地域住民

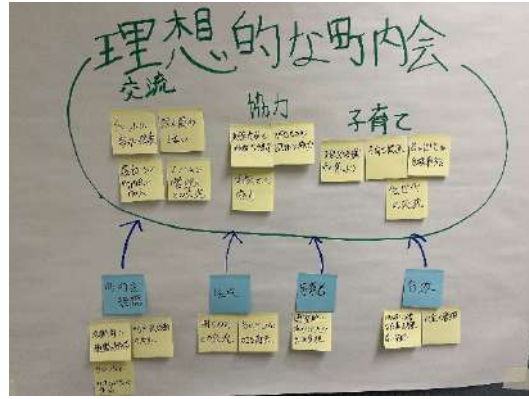
- ・周りの方との交流
- ・あいさつができる関係

●事業者

- ・通院時に車やガソリン代を負担

●行政

- ・地域に必要な仕事を事業者に指示
- ・お金の管理



＜ワークショップ2の主な内容＞

C町内会（世帯数150世帯・戸建ての多い住宅街）の4つの課題

- ① 山が近いため、災害時の土砂災害が心配されている。高齢者が多いため、日中に災害があったときの避難対応が課題である。
- ② 役員が高齢化し、担い手もいないため兼務により活動している。担い手がない。
- ③ 行政から町内会への依頼事項が多く、手が回らない。
- ④ 会館が老朽化により使えなくなる可能性があり、地域の活動拠点の確保が不安である。また、防災機材を置く場所がない。

＜ワークショップ2の意見まとめ＞

	町内会	地域住民	事業者	行政
災害時の 避難対応	・防災計画の共有 ・優先的に助けが必要な方をリストアップ、共有	・携帯電話で共有	・定期的に交流のある業者と協力して安否確認	・パトロールなどの見回り活動 ・事業者・行政・町内会を調整
担い手が いない	・共通課題を作る ・参加する人にメリットを付ける ・専門的なスキルを持っている人材	・町内会活動を知って参加 ・自分の得意分野で協力		・ワークショップを行う
行政からの 依頼事項が負担	・行政に地域状況の共有	・自分の得意分野で協力	・一時的な拠点として使用	・町内会への依頼の調整
地域の活動 拠点の確保 防災機材の 保管場所	・カフェを利用し て拠点としても使用 ・空き家を利用して 防災機材を置く		・会議室の一時的な使用	・ワークショップを行う

6) Fグループの意見のまとめ

<ワークショップ1の主な意見>

①町内会の理想の姿

●町内会について

●課題

- ・会費を払いたくない
- ・めんどうなので、関わりたくない
- ・どのように活動しているか情報がない
- ・賃貸マンションは2/3が町内会に未加入である
- ・ゴミステーションの管理が悪くあふれている

●参加しやすいイベント（アドバイザーとの連携）から町内会加入の促進

- ・盆踊りに参加するなど、子供のために活動
- ・マンションの集会所を町内会の活動の場所として提供
- ・イベントの参加
- ・若い人にできる範囲で参加してもらう（家の前での雪像づくり）
- ・得意分野で活動
- ・身近なところから少しずつ参加してもらい、大きくしていく
- ・公園を活用して、交流やイベントを広める

●ゴミルール

- ・ゴミルールの徹底が出来る

●防災活動

- ・マンションの集会場を町内会で避難場所として活用してもらう

●見守り

- ・福祉（見守り）活動の活発化
- ・担い手（NPOと連携）

●会費をうまく集める方法

- ・クラウドファンディング
- ・振込み

●活動内容の明確化（LINE、町内会アカウント）→情報発信するチャンネル（手段）を増やす

- ・回覧板以外の方法で情報を発信する

②理想的な町内会での4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）の役割

●町内会

- ・ イベントを考える
- ・ 役員の報酬を出す
- ・ 意見を受ける

●地域住民

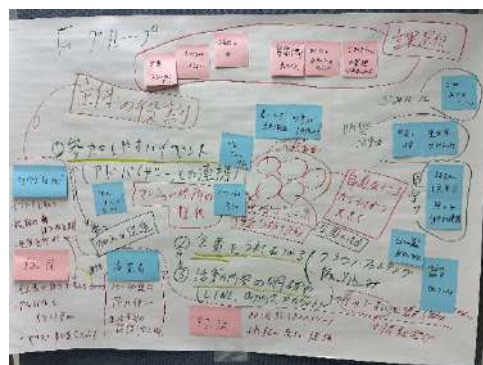
- ・ 住民が自分で考える
- ・ アルバイトでイベント参加
- ・ やりたいことの意見を出す

●事業者

- ・ ノウハウの提供
- ・ アドバイザー
- ・ 生涯学習の学ぶ場を提供

●行政

- ・ 相談役（アドバイザー）
- ・ 情報の発信・提供



＜ワークショップ2の主な内容＞

D 町内会（世帯数 700 世帯・集合住宅と戸建て住宅が半分ずつ、企業や大学が立地）の4つの課題

- ① 学生が多く住んでおり、気軽に手伝いができるようにしたいが、どのような受入体制が必要かわからない
- ② 集合住宅の町内会加入率が低く、入居者への声かけや会費徴収が難しい。
- ③ コロナ禍でオンラインツールを用いたコミュニケーションの必要性を感じているが、どのように導入すれば良いかわからない。
- ④ ごみステーションの利用のルールやマナーが浸透していない。空き地が少ないためごみステーションの設置場所がなく、個人宅の前だと断られてしまう。

＜ワークショップ2の主な意見＞

	町内会	地域住民	事業者	行政
学生の受入れ体制	・チラシの（活動）一斉配布 ・やり方を考える	・配布のバイト（学生） ・若い人を取り込む	・チラシ、SNS で情報発信のネタを作る ・大学を通じて学生に広める ・情報・ノウハウを活かす	・情報・ノウハウを伝える
集合住宅の町内会加入率 会費の徴収	・加入する方法を発信（入りたてない人や会費を払う時間が合わない人がいる） ・マンション用の情報発信（戸建ての人とメリットが異なる）	・マンションの集会場を防災や交流の場として提供	・大学が地域コミュニティについて研究する ⇒住民が調査に協力する ・学生が興味関心を持つ	・備蓄品（防災）の補助
オンラインツールの導入	・学生に教えてもらう ・交流	・住民である学生が教える	・ゴミ問題の情報発信	・ゴミ問題の情報発信

	町内会	地域住民	事業者	行政
ゴミの管理	・本人にごみを返して伝える ・地球規模の環境問題の発信をする ・清掃活動の参加を呼びかける	・細かいルールは住民同士が決める ・清掃活動に参加してもらう ・ゴミステーションをきれいに使う	・防災カメラの設置(ダミーでも良い) ・ノウハウの提供・作成支援	・マナー違反の取り締まりを行う ・地域に協力する ・ノウハウの提供・作成支援

第4章 参加者アンケート

1 アンケート実施概要

本アンケートは、参加者にワークショップについて率直な意見を伺い、条例についての検討や今後のワークショップの開催・運営等に活かすことを目的に実施した。

- ・調査対象：「町内会条例に関する市民ワークショップ」参加者
- ・配布・回収方法：ワークショップ当日（令和4年3月4日/3月6日）に配布・回収
- ・回収数：59名（3月4日…29名、3月6日…30名）

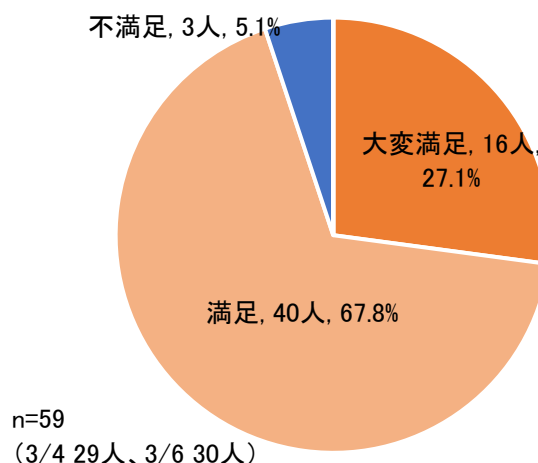
2 アンケートの質問項目と結果

【質問 1】「町内会条例に関する市民ワークショップ」に参加して

（1）参加した感想（ひとつに○）

「大変満足」「満足」が回答の9割を超える結果となった。

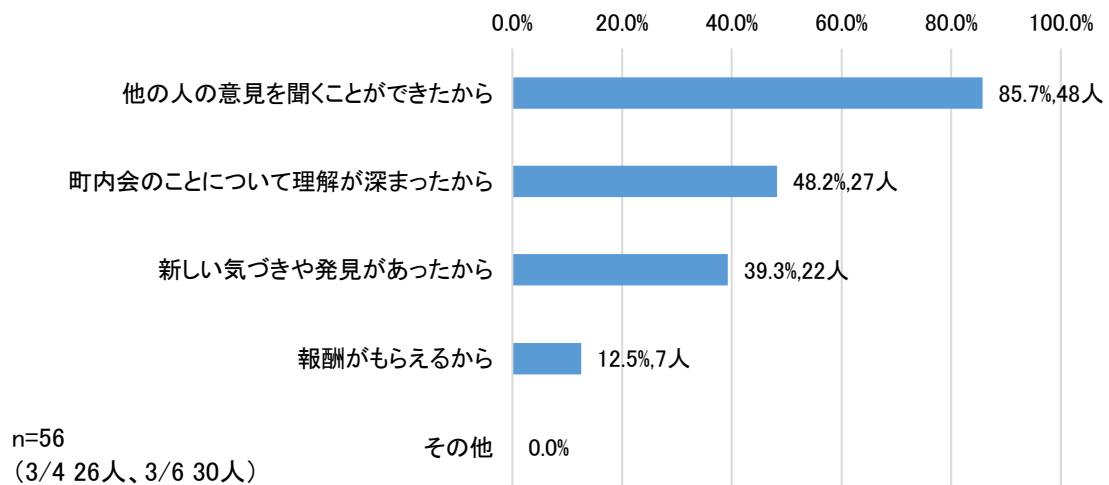
選択肢	回答数	割合
大変満足	16	27.1%
満足	40	67.8%
不満足	3	5.1%
大変不満足	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	59	100.0



（2）（1）で「①大変満足」「②満足」と回答した理由（複数回答）

「他の人の意見を聞くことができたから」との回答が48名と最も多かった。次いで「新しい気づきがあったから」との回答が27名であった。

選択肢	回答数	割合
他の人の意見を聞くことができたから	48	85.7%
町内会のことについて理解が深まったから	27	48.2%
新しい気づきや発見があったから	22	39.3%
報酬がもらえるから	7	12.5%
その他	0	0.0%
合計	56	



(3) (1) で「③ 不満足」「④ 大変不満足」と回答した理由（複数回答）

「有意義な話し合いができなかったから」との回答が 3 名、「思ったより大変だったから」との回答が 1 名であった。

選択肢	回答数	割合
有意義な話し合いができなかったから	3	100.0%
思ったより大変だったから	0	0.0%
町内会のことについて理解できなかったから	0	0.0%
その他	1	33.3%
合計	3	

※その他意見の内容

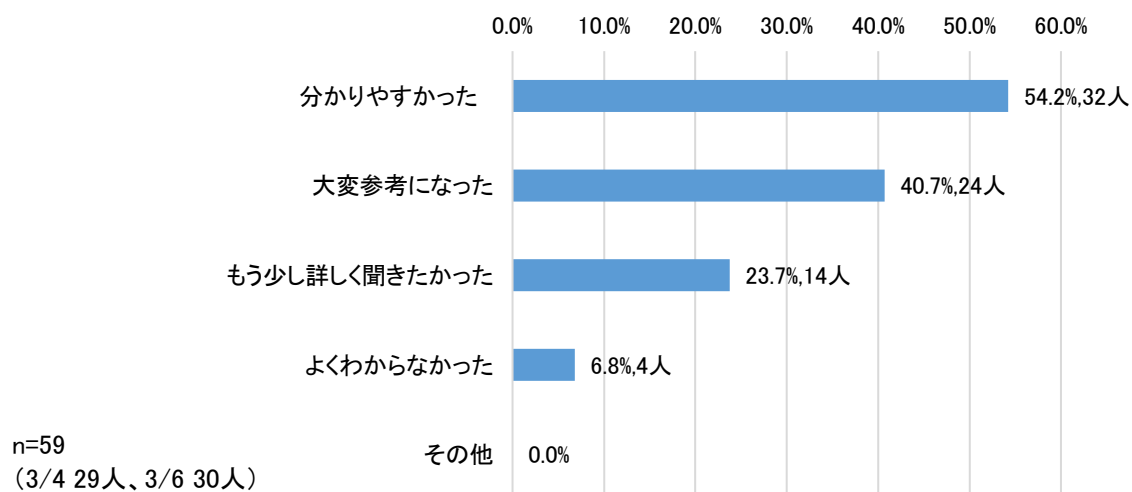
・目的のみに話を進めていた

【質問 2】 情報提供について

(1) 町内会に関する基礎情報や、町内会に関する条例などの情報提供について（複数回答）

「分かりやすかった」が最も多く 32 件であった。

選択肢	回答数	割合
分かりやすかった	32	54.2%
大変参考になった	24	40.7%
もう少し詳しく聞きたかった	14	23.7%
よくわからなかった	4	6.8%
その他	0	0.0%
合計	59	



(2) (1) で「④よくわからなかった」とご回答した理由（複数回答）

「内容が難しい」との回答が 1 名、「説明が不十分」との回答が 1 名、「説明の時間が短い」との回答が 1 名であった。

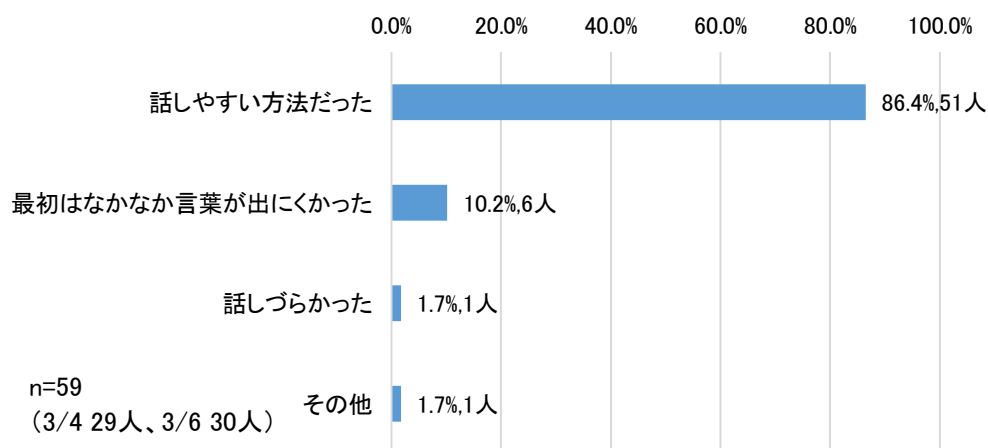
選択肢	回答数	割合
内容が難しい	1	25.0%
説明が不十分	1	25.0%
説明の時間が短い	1	25.0%
話が聞き取りにくい	0	0.0%
用語が難しい	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	25.0%
合計	4	

【質問3】話し合いについて

(1) 話し合いの方法について（複数回答）

「話しやすい方法だった」と回答した人は8割以上であった。

選択肢	回答数	割合
話しやすい方法だった	51	86.4%
最初はなかなか言葉が出にくかった	6	10.2%
話しづらかった	1	1.7%
その他	1	1.7%
合計	59	



※その他意見の内容

- ・他グループと距離が近くて自分のグループに集中しにくかった。

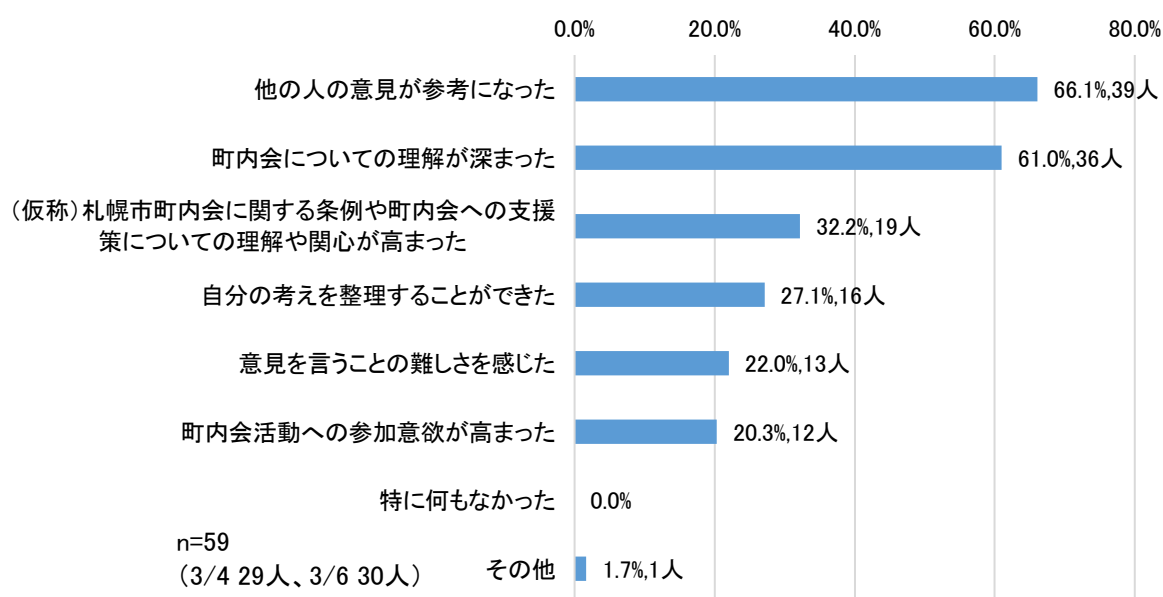
(2) (1) で「話しづらかった」と回答した理由（自由回答）

- ・町内会の存在意義や目的などが共有されず、枝葉のところで議論しているので深まらなかったと思う。

【質問4】参加して得たものについて（複数回答）

「他の人の意見が参考になった」と回答した人は39名、「町内会についての理解が深まった」と回答した人は36名であった。

選択肢	回答数	割合
他の人の意見が参考になった	39	66.1%
町内会についての理解が深まった	36	61.0%
（仮称）札幌市町内会に関する条例や町内会への支援策についての理解や関心が高まった	19	32.2%
自分の考えを整理することができた	16	27.1%
意見を言うことの難しさを感じた	13	22.0%
町内会活動への参加意欲が高まった	12	20.3%
特に何もなかった	0	0.0%
その他	1	1.7%
合計	59	



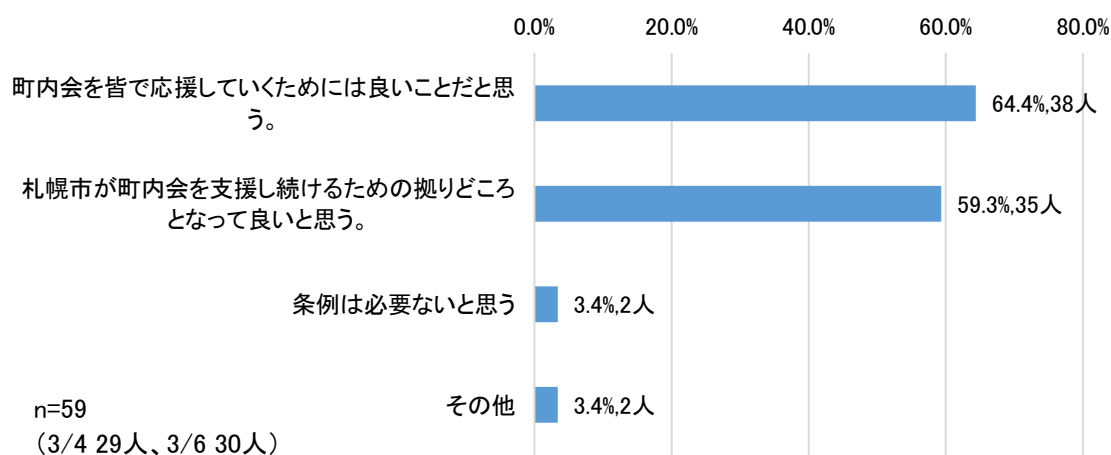
※その他意見の内容

・市の関わりが少ないことがわかった

【質問5】札幌市が町内会の意義や重要性を共有するための条例を作ることについて（複数回答）

「町内会を皆で応援していくためには良いことだと思う。」が最も多く 38 名、次いで「札幌市が町内会を支援し続けるための拠りどころとなって良いと思う」が 35 名であった。

選択肢	回答数	割合
町内会を皆で応援していくためには良いことだと思う	38	64.4%
札幌市が町内会を支援し続けるための拠りどころとなって良いと思う	35	59.3%
条例は必要ないと思う	2	3.4%
その他	2	3.4%
合計	59	



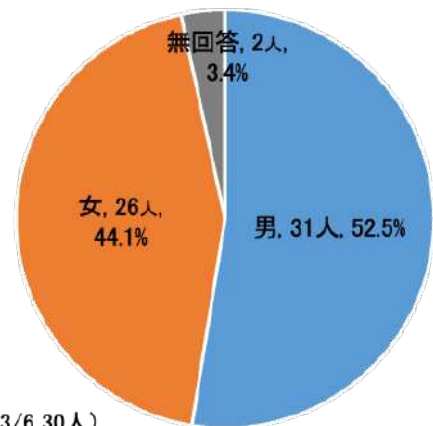
※その他意見の内容

- ・ 条例まで必要なのかな
- ・ 条例の内容による

【質問6】回答者さま自身について

(1) 性別

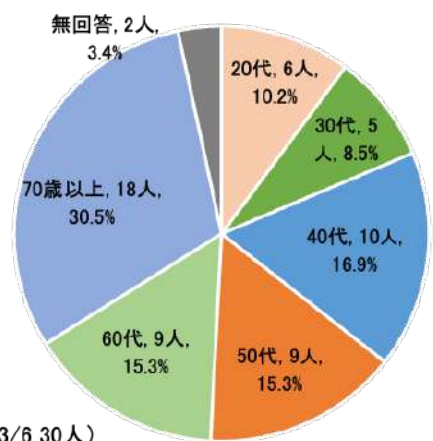
選択肢	回答数	割合
男	31	52.5%
女	26	44.1%
その他	0	0.0%
無回答	2	3.4%
合計	59	100.0%



n=59
(3/4 29人、3/6 30人)

(2) 年代

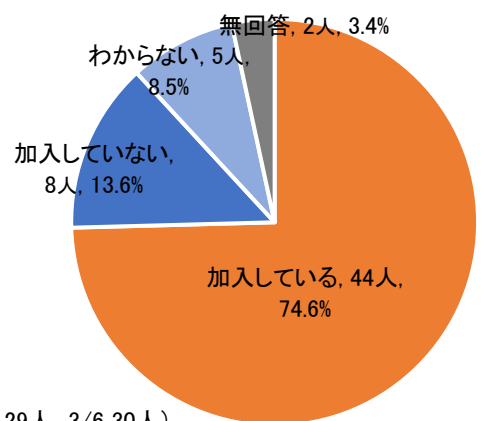
選択肢	回答数	割合
20代	6	10.2%
30代	5	8.5%
40代	10	16.9%
50代	9	15.3%
60代	9	15.3%
70代以上	18	30.5%
無回答	2	3.4%
合計	59	100.0%



n=59
(3/4 29人、3/6 30人)

(3) 町内会への加入状況 (ひとつに○)

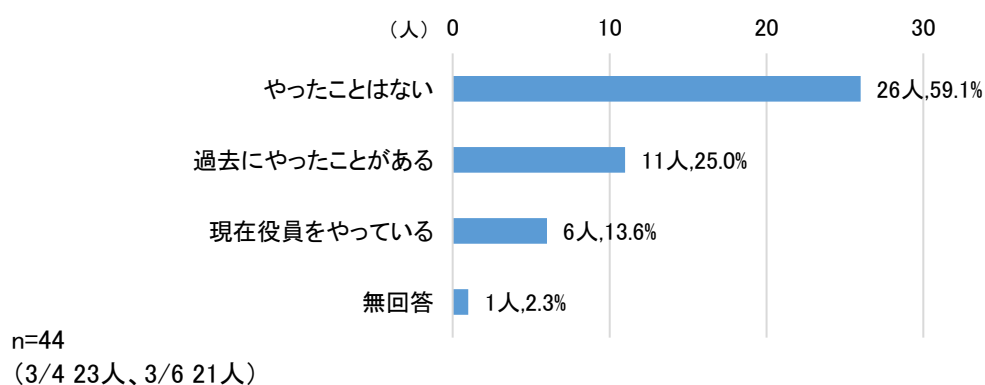
選択肢	回答数	割合
加入している	44	74.6%
加入していない	8	13.6%
わからない	5	8.5%
無回答	2	3.4%
合計	59	100.0%



n=59
(3/4 29人、3/6 30人)

(4)(3)で「①加入している」とご回答された方のうち、町内会の役員（班長を除く）になった経験（ひとつに○）

選択肢	回答数	割合
やったことはない	26	59.1%
過去にやったことがある	11	25.0%
現在役員をやっている	6	13.6%
無回答	1	2.3%
合計	44	100.0%



(5)(3)で「②加入していない」とご回答された方の理由（複数回答）

選択肢	回答数	割合
活動に関する情報が乏しいから	3	42.9%
会費の支払いを負担に感じるから	3	42.9%
班長や役員が負担に感じるから	2	28.6%
仕事や育児などで忙しく時間がないから	2	28.6%
人間関係が煩わしいから	2	28.6%
きっかけがつかめないから	1	14.3%
加入の仕方がわからないから	1	14.3%
加入の必要性や意義、メリットを感じないから	1	14.3%
その他	3	42.9%
無回答	1	14.3%
合計	8	

※その他意見の内容

- ・町内会がない
- ・マンションに住んでいるために町内会の役割がよくわからない。

【質問 7】 自由回答

59 名中 32 名から回答を得られた。内容は以下のとおりである。

- ・ファシリテーターさん（濱本さん）ととてもうまく意見をまとめてくださいました。参加者だけでここまで仕上げるのは難しかったと思いました。大変勉強になりました。参加してよかったです。
- ・色々な人の意見を聞くことができて興味深かったです。ファシリテーターの方のワークショップの進め方が素晴らしく、意見を出しやすかったと思います。
- ・封筒を持ち帰ることを事前にしれるとかばんのサイズを考えられて助かります。
- ・町内会条例を作るための意見誘導的なワークショップでなかったかと思う。町内会の実情のもとで、今回のワークショップのような課題設定でよかったのか。
- ・各町内会でニーズが異なると思うので、地域住民で理想の町内会について話をする機会を設けるのが良いと思いました。
- ・このような活動が世の中のために生かされるといいなあと思う。
- ・町内会について他の会の状況を知ることができて、勉強になった。
- ・意見を言う難しさを感じました。
- ・このワークショップを若年層だけの参加企画を考えた方が良いかと思う。また、20 代＋70 代、30 代＋60 代のグループワークを行い、色々な意見交換の必要があると思います。今回はワークに司会の方がおり、やりやすかったです。
- ・札幌市が作ろうとしている町内会条例の基本的な考え方や目的を聞きたかったです。
- ・町内会の未加入問題については、町内会は任意加入であるという最高裁判決を認識した上で議論すべきと考えます。
- ・加入していない理由の中で、班長や役員が負担に感じることや活動に関する情報が乏しいことが要因になっていることは大事だと思います。
- ・各市民が困っていること等を話し合い、町内会ができること、行政ができることをもっと話し合いたかった。
- ・進行、まとめ等ありがとうございました。他の町内会の様子や意見も聞けて、もし役員をやることがありましたら、参考にさせていただきたいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・色々な事をお聞きして勉強になりました。
- ・多くの人の意見には隔たりはあるものの、聞いて大変刺激をいただきました。ありがとうございました。
- ・町内会活動がよくわからなかったが、とても大切な事だと思い、考えが変わった。が、情報がなくどうして良いかもよくわからない。今後このワークショップを広めてほしいと思う。
- ・ワークショップに参加するのは初めてだったので、雰囲気や進み方を知る良いきっかけになった。
- ・楽しく参加できました。ありがとうございました。マスクを外して話すのはやめてもらい

たい。

- ・町内会について普段交流のない世代とお話することで理解を深めることができました。今日はワークショップの開催・運営をしていただきありがとうございました。
- ・高齢化に伴い、役員の担い手がいなくなっている。札幌市・他の地域も同様である。根本的な解決策を望む。本日はありがとうございました。
- ・今後もワークショップの機会を増やしてほしいです。色々な意見が出るのが大切だと思います。
- ・住みやすいまちづくりに参加していきたいと思います。今日はとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とても参考になり、勉強になりました。
- ・条例を作ってより良い町内会を期待しています。
- ・ここ2年間仕事の研修会も中止になる中で本当に久しぶりに勉強したって感じで、町内会の内容をより深く考える機会をいただいたことは良かったです。1グループ5名でリーダーがいるのは比較的話しやすい雰囲気良かったですと思います。
- ・町内会は街づくりに必要だと思いますので、地域で協力しあって活性化することを願っています。
- ・参考になりました。
- ・現在加入している町内会の活動が不透明なため、今回は勉強のつもりで伺いましたが、グループ内でたくさんの意見が聞け、大変有用でした。今後は地域にもっと目を向けて、アンテナを貼り情報収集していきたいと思います。どうもありがとうございました。
- ・時々このような勉強会があればいいと思いました。
- ・大変勉強になりました。

3 参加者アンケート結果のまとめ

(1) 参加者について

今回の町内会条例に関する市民ワークショップは町内会未加入者なども含めた幅広い世代の市民の意見を抽出するため、住民基本台帳から無作為で選ばれた方に参加案内を行い、参加申込をした方の中から抽選の上、参加者を選定するという手法で実施した。

なお、無作為抽出にあたっては、あらかじめ、居住区や性別、年齢層ごとの構成比が均等になるよう考慮して抽出した。

(2) 参加者アンケート結果

1) ワークショップ全体について

ワークショップに参加した満足度については、「大変満足」と「満足」を合わせると9割以上と、満足度が高かった。その理由としては、「他の人の意見を聞く事ができたから」が約9割と多く、次いで「町内会のことについて理解が深まったから」が約5割、「新しい気づきや発見があったから」が約4割であった。ワークショップのような場で多様な性別、年齢の参加者と意見交換をすることについて満足度が高かった。また、「町内会条例」のように何かのテーマについて情報提供を受け、理解を深めながら議論し、新しい気づきや発見を生み出すということに対して満足した参加者が多かった。一方で、「不満足」と回答した参加者の理由としては、「有意義な話し合いができなかった」という回答もあった。

2) 情報提供について

情報提供について、「わかりやすかった」が約5割、次いで「大変参考になった」が約4割と満足度は高かった。一方「もう少し詳しく聞きたかった」という意見も約2割あり、内容が難しく、説明する時間が不足していたと感じる参加者もみられた。

3) ワークショップについて

話し合いの方法については、「話しやすい方法だった」という回答が約9割と最も多く、5~6名のテーブルにファシリテーターが入り進行するようなワークショップ形式での話し合いが適切であったことがうかがえる。

「町内会についての理解が深まった」が約6割、札幌市が検討している「(仮称)札幌市町内会に関する条例や町内会への支援策についての理解や関心が高まった」という意見が約3割あった。参加者のうち約1割は町内会に加入していない。町内会に加入している参加者のうち、過去に役員をやっていたり、現在役員をやっている参加者は約4割であり6割近くの参加者が役員をやったことがなかった。今回のワークショップを通して、普段関心の低い町内会の取組や意義、活性化に向けた市の施策について理解が深まったことがうかがえる。「今回のようなワークショップの機会を増やしてほしい」という意見もあり、市や専門家から情報提供があり、意見交換をしながら考えを深めるなど、札幌市のまちづくりについて知る機会を求める声もあった。

4) 札幌市が町内会についての条例をつくることについて

「町内会を皆で応援していくためには良いことだと思う」、「札幌市が町内会を支援し続けるための拠りどころとなって良いと思う」が回答の大半を占め、参加者の大半から町内会に関する条例についての肯定的な回答があった。

5章 ワークショップのまとめ

今回の市民ワークショップでは、「これからの町内会のために、私たちができることについて考える」をテーマとした議論を行った。参加者から出された意見をもとに、町内会の理想的な姿と町内会・地域住民・事業者の役割、行政の責務を整理する。

1 求められる町内会のイメージ

(1) あいさつ、助け合いができる関係性

町内会に求める関係性は、会った時にあいさつができるような程よい距離感の関係性を求める声が多かった。「個人的なことを話したり、気を使ったりするような人間関係を築くことは避けたい」という意見もあった。

一方で、災害時など有事の際には助け合える関係性のニーズは高く、災害時や日頃の防災に対し、町内会でしっかり対応できる体制づくりが求める声が多かった。

(2) 子供や子育て世代、高齢者が暮らしやすい

理想的な町内会像として、参加者からは、子育てしやすい地域、子どもが「子ども会」などの町内会の活動に参加できる地域があげられた。子育てで困ったときなどに頼れる関係があったり、地域全体で子どもを見守れる環境を求める声が多かった。「日頃から子育てサロンや地域食堂などで町内会との地域住民のつながりがあると良い」という意見もあった。

また、今後、高齢化が進むことを考えると、一人暮らしの高齢者も安心して暮らせる環境をつくる必要性もあげられた。除雪や家事など高齢者では難しいことを助け合えるサポーターをつくったり、災害時にも高齢者に配慮しながら避難できるような支援体制が求める声もあった。

行政には、「支援が必要な高齢者に町内会への参加を進めるような声かけがあると良い」という意見もあった。

(3) 活動の見える化とオープンな運営

参加者においては、町内会についてよく知らない参加者が多かった。そのため、日頃の町内会の活動が見える化されており、町内会があることの意義やメリットが分かりやすい情報発信を求める声が多くみられた。「町内会や地域の為に貢献したいが、地域でどのような活動があるのかわからない」という意見もあり、町内会が協力を求めていることや困っていることが明確化されているなど連携体制がわかりやすい町内会運営を求める声もあった。

また、「町内会費が何に使われているのかわからない」という意見もあり、活動が見えない町内会運営に対して会費を払うことに不信感を感じている参加者もみられた。

町内会の活動についての情報発信を強化し、活動が見える化し、オープンで参加しやすい運営を求める声が多くあがった。

2 町内会・地域住民・事業者の役割、行政の責務

(1) 町内会の役割

参加者からの意見では、より良い地域コミュニティのため、地域住民、事業者と連携を進め、大学や NPO などの団体とも協力することを見据えた体制や組織づくりが必要という声があった。

参加者からは、町内会の活動や意義について知らない地域住民が多くいることが予想されるため、若い世代には SNS や LINE など町内会の情報を得られるようにするなど、「多様な媒体を用いた広報活動を行う必要がある」という意見があった。また、電子回覧板を導入したり、会費徴収をキャッシュレス対応にするなどのデジタル化を進め、「手軽に情報を得たり、若い世代でも参加しやすい仕組みをつくると良いのではないか」という意見もあった。「子どもや親子連れで参加しやすい行事を行うことで、親世代の町内会への参加のきっかけとなる」というアイデアも寄せられた。

地域住民や事業者のニーズに対応しながら、柔軟に事業や組織を見直しながら活動を継続していくことが必要という声が多かった。

(2) 地域住民の役割

町内会についてあまり知らない参加者が多かったことから、参加者からは、町内会への関心を持ち、自分から積極的に地域の情報を得て、町内会の活動や役割についてしっかりと理解することが地域住民の役割としてあげられた。

また、「仕事や家庭のなかでも、できる限り町内会の行事や取組に参加する」、「自身の得意なことを活かして活動できるとよい」という意見があった。

(3) 事業者の役割

事業者の役割としては、町内会と日頃からコミュニケーションを取り、必要なときに協力できる関係性をつくることが参加者からあげられた。具体的には、企業が持つノウハウや建物や敷地などの場所を提供するような協力を求める声が多かった。

特に災害時において、日中現役世代が働きに出た地域では、高齢者が多く残される。そのような時に、「協力できそうな事業者があれば、災害時の協力体制を作れると良い」という意見があった。

(4) 行政の責務

町内会が地域住民だけでなく、事業者や大学、NPO などとの連携が求められていることから、行政は「行政が町内会や事業者をつなぐコーディネート支援を行うと良い」という意見があった。

若い世代の住民からは電子回覧板や集金システムなど町内会のデジタル化が求められている一方で、町内会ではそのノウハウがなかったり、導入のハードルが高い。また、活動の見える化や情報発信の強化が求められているが、町内会に適切な人材がない場合もある。そのため、専門性の高い分野などについては「町内会の活動をサポート、アドバイスを行うことができる支援者を派遣すると良い」という意見があった。また、地域コミュニティの交流の拠点となるような場所の確保に向け、「空き家のリノベーションなどに対する建替え費用は一部行政に支援

してもらおう」という意見もあった。

3 求められる行政の支援策

ワークショップで出された3者の役割と行政の責務から、求められる行政の支援策としては以下のものがあげられた。

<町内会運営に関する支援>

○専門的ノウハウの提供

町内会の運営に関する支援としては、参加者から町内会に対して「町内会役員の仕事は大変なイメージがある」という声もあり、町内会の総務や会計業務など具体的な運営手法についてのノウハウの提供のサポートが必要であるとの声があった。また、地域での防災に対する意識はあっても具体的にどのように備えればいいのかわからなかったり、災害時の連携体制をつくるのが難しかったりする場合もあるため、行政の支援として、出前講座などで防災のためのノウハウを提供したり、地域全体で災害に備える体制づくりを支援することなども必要であるとの声があった。

SNSやLINEなどの活用については若い世代からのニーズがある一方で、町内会では導入に向けたノウハウは少ない現状がある。今後、町内会においてもデジタル化が進み、電子回覧板の導入や、町内会費の集金方法のキャッシュレス化の対応などが予想されることから、「デジタルツールの活用に向けた専門的なアドバイスやマニュアルなどの情報提供があると良い」という意見が多くあげられ、今後の町内会の活動や運営に関する支援として、町内会のデジタル化に係る支援の必要性があげられた。

○町内会の人材育成

参加者のアンケート結果では、「ワークショップを通して町内会についての理解が深まった」という感想も多く、担い手育成に向けて「地域のカフェなどで場所を借りて町内会についての意見交換会（ワークショップ）を開く」というアイディアもあげられた。

○地域の事業者や大学などとのコーディネート支援

町内会と事業者、地域住民が連携するためには、「まちづくりセンターなどが入って町内会と事業者、大学などとの連携を仲介する支援を行う」という意見があげられた。

また、町内会だけでは連携のきっかけをつくるのが難しいため、行政が仲介役となって事業者との連携を促進させる必要性があげられた。

<加入促進に向けた支援>

○町内会を知り理解を深める機会の創出

町内会への参加を促すためには、まずは町内会について周知し、理解を深めてもらうことが必要であるため、「行政の広報を使って、町内会の意義や参加のメリットなどの周知を強化し、町内会活動への理解を促してはどうか」という意見があげられた。特に町内会が身近ではない学生や若い世代に対しては、町内会活動に関心を持ってもらうためのポータルサイトを開設し

たり、LINE 公式アカウントなどの SNS を用いた情報発信が効果的であるという声もあった。

○不動産会社・管理会社との連携

転入者は不動産会社から地域の情報を得ることが多く、集合住宅に居住する住民にとっては、暮らしの中で困り事があったときに相談する先はマンションなどの管理会社であることが多い。そのため、「マンション住民は何かあったときには管理会社に連絡するため、管理会社と町内会の繋がりが大切である」「管理会社や不動産会社と町内会のつながりを行政主導でつくれるとよい」という意見があげられた。不動産会社や管理会社は入居者に対して町内会の存在や活動内容などについて説明し、加入を促すような協力を行政から依頼できる良いという声もあった。

＜資金面での支援や補助＞

参加者からは、加入率の低下等により運営費が減っている町内会への資金面での支援として、町内会で行う事業への資金の補助やごみステーション関連費用の補助、活動の拠点である会館が老朽化した時などの会館の建て替え、リノベーションのための資金補助などの必要性があげられた。

＜理想的な町内会像＞

- ・あいさつがある
- ・ほどよい距離感がある
- ・災害時の助け合いがある
- ・子育て環境が整っている
- ・高齢者の見守りができている
- ・多世代の適度な交流がある
- ・オープンな運営がされている

町内会組織



●町内会の役割

- ・良い地域コミュニティのため大学・企業・NPO と連携
- ・オープンな運営、情報公開
- ・デジタル化（LINE・SNS・キャッシュレス）
- ・子ども向けの活動を行い子どもから大人の参加につなげる
- ・会員ニーズに対応し、力を入れる事業とそうでないもののメリハリのある運営

企業・事業者



●事業者の役割

- ・町内会に協力
- ・企業のノウハウを提供する
- ・災害時の人材・場所の協力
- ・コミュニティの場の提供

地域住民



●地域住民の役割

- ・町内会の活動について理解
- ・積極的に情報を得る
- ・町内会の行事や取組に積極的に参加
- ・特技やできることを生かした参加

●行政



- ・町内会が地域コミュニティの中核として他の団体・組織との連携を支援、コーディネートする
- ・デジタル化の支援 電子回覧板、集金システム（キャッシュレス）など
- ・町内会の情報発信や情報公開の専門的な情報のアドバイス
- ・人材発掘のための取組事例の紹介
- ・空き家活用などのリノベーション費用等の支援

6章 資料編

1 情報提供資料

町内会条例に関する 市民ワークショップ

これからの町内会のために
わたしたちができること

日時: 令和4年3月4日(金) 13:30~16:30
場所: 札幌市教育文化会館3階 研修室305
主催: 札幌市 市民文化局 市民自治推進課

町内会条例に関する 市民ワークショップ

これからの町内会のために
わたしたちができること

日時: 令和4年3月6日(日) 13:30~16:30
場所: 北海道立道民活動センター(かでる2.7) 820研修室
主催: 札幌市 市民文化局 市民自治推進課

本日のプログラム

13:30	1. 開会、あいさつ
13:40	2. 情報提供①(10分)
13:50	3. 情報提供②(20分)
14:10	4. ワークショップ①(50分)
暮らしを支える理想的な町内会の姿	
①あなたの暮らしを支えてくれる理想的な町内会(地域コミュニティ)を考えよう	
②理想的な町内会(地域コミュニティ)では、4主体はどんな役割を担っているでしょう	
15:00	5. 休憩(10分)
15:10	6. 情報提供③(10分)
15:20	7. ワークショップ②(40分)
モデルケース町内会から町内会の課題解決のために4主体ができることを考える	
16:00	8. 各グループから発表
16:20	9. まとめ
16:30	10. 閉会のあいさつ、アンケート記入

情報提供 1

「(仮称)札幌市町内会に関する条例」について

・市民文化局 市民自治推進室

札幌の地域コミュニティと町内会

札幌の地域コミュニティと町内会

札幌市では、環境美化や交通安全、地域のお祭りなど、町内会の皆様の多岐にわたる活動によって、安全安心で暮らしやすい地域コミュニティが維持されてきました。町内会は地域を構成する様々な団体の中でも、特に私たちの生活に密着し、幅広い分野にわたって関わっている地域コミュニティの中心的存在です。

町内会の重要性の高まり

- 「互助」が必要な場面の増加
- ・超高齢社会の進展による社会的弱者の増加
- ・自然災害(地震、風水害など)の増加
- 地域コミュニティ(地域住民同士のつながりや連帯感)の希薄化に伴う「親睦」を担う町内会の重要性の高まり

町内会が抱える課題

- 役員の高齢化
- 担い手不足による町内会活動の停滞
- ・活動規模の縮小、担い手の固定化 など
- 町内会加入率の低下
- 町内会の必要性に係る市民意識の低下
- ・若年層の加入率の低さ
- ・コロナ禍における町内会活動の停滞 など

(仮称)札幌市町内会に関する条例と町内会支援策

地域コミュニティの中核である町内会が将来にわたって維持・発展し、これからも安全安心で暮らしやすい地域コミュニティを維持していくために必要なこと

- 町内会の意義や重要性を「条例」という形で示し、市民、事業者、行政がしっかりと認識して共有していく
- 市は、条例を基に、将来にわたって、町内会の加入促進、負担軽減につながる様々な支援策を行っていく

(仮称)札幌市町内会に関する条例
＜基本的な考え方＞

- 「基本的な考え方と基本となる施策」を定める条例とする
- 町内会の意義と重要性を市民と共有するためのもの
- 町内会の加入を強制するものではない
- 市は指導などの強制力は持たない

町内会支援策
＜実効性＞

- 加入促進支援につながる具体的な施策
- 町内会の負担軽減につながる具体的な施策
 - 経費的負担の軽減
 - 人的負担の軽減 など

両輪で町内会を維持・発展



今日の意見交換

- 理想的な町内会の姿を考えます
- 仮想町内会（地域コミュニティ）の課題から町内会、地域住民、事業者、行政の役割を考えます

町内会

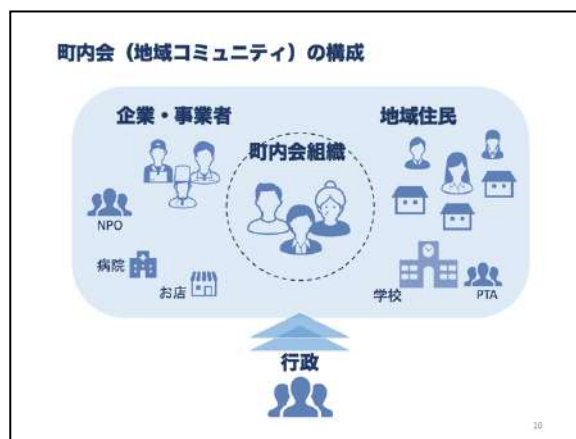
地域住民

事業者

行政

情報提供2

町内会とは？



町内会(組織)とは

- 安全安心で暮らしやすい地域コミュニティを維持することや形作るための地域的な共同活動を行う地縁団体です。
- 地域コミュニティの中核として、日常の交流などを通じて、福祉や防災・防犯、環境美化や冬季の除排雪など、さまざまな面で地域住民の生活を支援しています。

町内会の活動

ごみステーションの管理・清掃活動

町内会での除排雪



パートナーシップ排雪

33

災害時の助け合い



34

高齢者の見守り



35

お祭り・交流イベント



36

子育て支援



子育てサロン

37

町内会の運営

- 札幌市内の町内会の代表的な運営です。



- 町内会費は月500円～700円程度が平均です。
- 除排雪費を町内会費と別に徴収している町内会が多い状況です。

38

マンションの方々も町内会と関係しています



39

町内会はいらないのでは？

- 町内会を解散した札幌市内のある地域では、暮らしを支えるために、互助会を組織し、町内会の再結成の検討を始めるところです。
- 町内会は、地域の人々の暮らしを支える大切な仕組みであることが解ります。



40

- 41

22

21

24

25

26

123

30

情報発信を行う町内会も増えています

●Facebookページで情報発信



29

町内会のデジタル化も少しずつ進んでいます

●LINEグループ

- ・役員間でLINEグループをつくり、情報共有や合意形成を行なっています。
- ・LINEグループにより、役員の負担が軽減されています。
- ・働いている人も参加しやすくなりました。



(札幌市手稲区富丘山の手町内会)

30

●電子回覧板の導入



31

札幌市が考えている 町内会に関わる各主体の役割等

※条例案の(案)より

32

町内会の役割

- ・住民相互が助け合い、支え合いながら、暮らしやすい地域コミュニティの維持と形成に努めましょう。
- ・地域住民の参加や加入を促すため、多様な価値観と自主性を大切にし、開かれた運営に努めましょう。
- ・必要に応じて、他町内会やまちづくりを行うほかの団体などと連携するようにしましょう。



33

地域住民の役割

- ・町内会が暮らしを支えていることを改めて理解しましょう。
- ・住民の皆さんは地域の一員であることを認識しましょう。
- ・暮らしを支えている町内会の意義や重要性を理解し、町内会活動への参加や協力に努めましょう。



34

企業・事業者の役割

- ・地域コミュニティにおける町内会の意義や重要性について理解し、町内会活動への参加や協力をしましょう。
- ・住宅販売などの会社や不動産会社は、入居者などに対して、町内会への自発的な加入などに関する情報提供をしましょう。また、町内会の維持や活動の活性化に関する市の施策に協力しましょう。



35

行政の責務等

- ・町内会の維持や活動の活性化のための施策を実施する。
- ・市として町内会に協力を依頼するものは、負担が大きくなりないように配慮する。
- ・市の職員が積極的に町内会活動に参加することを促進する。
- ・市の職員は、職務を通じて、町内会の意義や重要性を理解し、関心を深める。



36

ワークショップ1

37

ワークショップ1

暮らしを支える理想的な町内会の姿

- ①あなたの暮らしを支えてくれる理想的な町内会（地域コミュニティ）を考えましょう

例えば、あると良い活動、イベント、住民の支援を考えてみてください

- ②理想的な町内会（地域コミュニティ）では、4主体（町内会組織、住民、事業者、行政）はどんな役割を担っているでしょう

38

意見交換

39

休憩

40

情報提供3

41

町内会(組織)が中核となり、
地域住民、事業者、行政の連携で
地域課題を解決しています

42

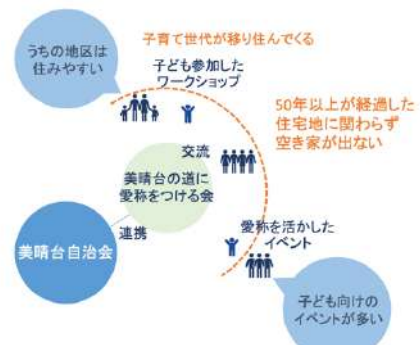


道に愛称をつけるワークショップ



美晴台のシンボル音楽を制作した公園での楽しいお給食き会

43



44

連携で地域コミュニティの価値を高める



45



札幌市手稲区新発寒地区
災害向上訓練



札幌市南区石山地区 災害向上訓練と炊き出し訓練

46



ゲストハウスと連携した災害対応

- 胆振東部地震の際、町内会と連携し避難場所としてゲストハウスが開放され、町内会による炊き出しをするなど、80人近くの地域住民が集まった。



47



- 町内会・地域住民・学校・事業者・行政などが連携したゆきあかりイベント
- 2つの町内会が中心となりアイスキャンドルを設置
- 近隣の学校がアイスキャンドル用ろうそくを製作・提供
- 企業のライトアップ、建設会社にショベルカーによる除雪
- マンション住民にもキャンドル制作
- 行政は活動に用いる資金の一部を助成金として補助、活動チラシの作成を支援



48



- 2014年に閉館となった幼稚園の払い下げを受けて、会館をリノベーションした。
- 多様な活動の場として広く利用されており、収益を生んでいる。
- 市の事業の一環として取り組み、リノベーション費用の一部は行政の支援を受けた。



ふくい会館(北海道 札幌市)

49

ワークショップ2

50

ワークショップ2

モデルケース町内会から町内会の課題解決のために4主体ができることを考える



51

CASE1



A町内会(世帯数200世帯・集合住宅が多く加入率が低い)

A町内会の4つの課題

- ①パートナーシップ排雪やごみステーションを未加入が利用する不公平に改善を求める声が多い
- ②活動に若い世代の参加者が少なく、高齢化が進んでいる
- ③お祭りの運営費が少なくなっており、会費の値上げも検討されている
- ④防災の取組に力を入れていきたいがノウハウがない。防災機材を置いておく場所がない。

52

●ワークシートの例

課題ごとの町内会・地域住民・事業者・行政ができること ケース: 3

	町内会	地域住民	事業者	行政
日中に災害があったときの避難対応	事前に地域内の事業所と連携できるような準備 支援が必要な人をリストアップ	余力で手助けできない人は事前に伝えておく	災害時に地域住民の避難に協力	
役員の若い手不足	活動の見直し、負担軽減			
行政から町内会への依頼事項が多い				
地域の活動拠点を確保が不安				

61

意見交換

62

各テーブルから発表

63

全体まとめ

64

アンケート記入

65

2 アンケート票

「町内会条例に関する市民ワークショップ」 アンケート

今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力下さい。

質問1 「町内会条例に関する市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加された感想をお聞かせ下さい。最もあてはまるもの1つに「○」をつけてください。

- () ① 大変満足 () ② 満足 () ③ 不満足
() ④ 大変不満足 () ⑤ その他【 】

(2) (1) で「①大変満足」「②満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 町内会のことについて理解が深まったから
() ② 他の人の意見を聞くことができたから
() ③ 報酬がもらえるから () ④ 新しい気づきや発見があったから
() ⑤ その他【 】

(3) (1) で「③不満足」「④大変不満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 有意義な話し合いができなかったから
() ② 町内会のことについて理解できなかったから () ③ 思ったより大変だったから
() ④ その他【 】

質問2 情報提供について

(1) 町内会に関する基礎情報や、町内会に関する条例などの情報提供について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 分かりやすかった () ② 大変参考になった
() ③ もう少し詳しく聞きたかった () ④ よくわからなかった
() ⑤ その他【 】

(2) (1) で「④よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 内容が難しい () ② 説明が不十分
() ③ 用語が難しい () ④ 話が聞き取りにくい
() ⑤ 説明の時間が短い () ⑥ その他【 】

質問3 話し合いについて

(1) 話し合いの方法について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 話しやすい方法だった () ② 最初はなかなか言葉が出にくかった
() ③ 話しづらかった () ④ その他【 】

(2) (1) で「③話しづらかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。(自由回答)

質問4 参加して得たものは何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 町内会についての理解が深まった
() ② (仮称)札幌市町内会に関する条例や町内会への支援策についての理解や関心が高まった
() ③ 町内会活動への参加意欲が高まった
() ④ 自分の考えを整理することができた () ⑤ 他の人の意見が参考になった
() ⑥ 意見を言うことの難しさを感じた () ⑦ 特に何もなかった
() ⑧ その他【 】

裏面に続きます

() ① 町内会を皆で応援していくためには良いことだと思う。

() ② 札幌市が町内会を支援し続けるための拠りどころとなって良いと思う。

() ③ 条例は必要ないと思う

() ④ その他【 】

(1) あなたの性別を教えてください。あてはまるもの1つに「○」をつけてください。
☐ ① 男 ☐ ② 女 ☐ ③ その他

(2) あなたの年代を教えてください。あてはまるもの1つに「○」をつけてください。
☐ ① 20代 ☐ ② 30代 ☐ ③ 40代
☐ ④ 50代 ☐ ⑤ 60代 ☐ ⑥ 70歳以上

(3) 町内会への加入状況について教えてください。あてはまるもの1つに「○」をつけてください。
☐ ① 加入している ☐ ② 加入していない ☐ ③ わからない

(4) (3)で「①加入している」とご回答された方にお伺いします。あなたは町内会の役員(班長を除く)になったことがありますか。あてはまるもの1つに「○」をつけてください。
☐ ① 現在役員をやっている ☐ ② 過去にやったことがある
☐ ③ やったことはない

(5) (3)で「②加入していない」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。
☐ ① きっかけがつかめないから ☐ ② 班長や役員が負担に感じるから
☐ ③ 加入の仕方がわからないから ☐ ④ 加入の必要性や意義、メリットを感じないから
☐ ⑤ 活動に関する情報が乏しいから ☐ ⑥ 仕事や育児などで忙しく時間がなから
☐ ⑦ 人間関係が煩わしいから ☐ ⑧ 会費の支払いを負担に感じるから
☐ ⑨ その他【 】

84